



会誌4号

【目次】

会長挨拶	---	1
推奨のことば	---	2
大甲の聖人と呼ばれた志賀哲太郎	---	3
陳忠正台湾総領事講話	---	10
志賀哲太郎先生の顕彰	---	12
初代会長松野國策氏を偲ぶ	---	19
志賀哲太郎先生顕彰碑建立の経緯	---	21
志賀哲太郎先生顕彰碑建立賛助者芳名録	---	24

志賀哲太郎顕彰会

令和2年12月

【表紙写真】志賀哲太郎先生之碑

本顕彰碑は、国内及び台湾の多くの有志から浄財が寄せられ、令和 2 年 12 月、かつて津森村の中心地であった上陳の広場に建立された。

志賀先生が後半生を過ごされ、台湾発展の礎となる幾多の人材をお育てになった台湾台中市大甲区には、教え子達が建立した立派なお墓と生誕百年記念の大きな顕彰碑がある。顕彰碑は、台湾の立法院長、行政院長、考試院長等の要職を歴任した孫科（孫文の子）の揮毫によるものである。

これまで、志賀先生の出生地熊本には、先生の妹ミノさんの孫・澤田寛旨氏が澤田家と志賀家の共同墓地に建立した小さな顕彰碑があるのみで、本顕彰会が発足するまで、先生の顕彰が行われることは稀であり、そのご事績を知る人は殆どなかった。

この顕彰碑は、本年 6 月、安倍晋三内閣総理大臣の揮毫を頂くこととなったが、志賀先生の榮譽を称え、その遺徳を仰ぐだけでなく、今後、民間外交による日台友好親善のシンボルの一つとなっていくであろう。

顕彰碑は、志賀先生が眠る、遙か台湾大甲の鐵砧山を望む方角に向けて建てられた。

■ 会長挨拶

宮本 睦士 （本会会長・益城町教育委員・益城の歴史遺産を守る会会長）



このたび、本会が大きな事業の一つとして掲げ、長年、計画を進めて参りました志賀哲太郎先生の顕彰碑がついに建立されました。

ご協力を頂きました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

台湾の志賀先生の顕彰碑が、かつて台湾の行政院長（首相）であった孫科の揮毫によるものであることが念頭にありましたので、本邦初となる顕彰碑の表題の揮毫は然るべき人をお願いしたいとかねがね念願してきたところであり、本会顧問の木原稔先生のご高配を頂いて、今春、安倍晋三総理大臣をお願いし、それが実現したことは何より有難いことでした。

折しも未曾有の国難となったコロナ肺炎の蔓延により、安倍総理がご多忙を極める毎日であられることは十分拝察されるところでしたが、当方としても、熊本、とりわけ益城町は、大地震からの復興に向けて鋭意奮闘しているさ中であり、このようなときにこそ、総理の揮毫を頂くことは、熊本県民にとって大きな励みとなるであろうこと、また、志賀先生を神様のように大事にして下さっている台湾の人々にとっても喜ばしく思っていることであり、私達が取り組んでいる小さな国際交流にも新たな意義が生まれるであろうと考え、それらのことも依頼書の中にしたため、無理を承知でお願いすることとした次第でした。

お願いを申し上げてから揮毫の原稿を頂くまでにそれなりの時間がかかりましたが、総理におかれては、この小さな民間団体の取組みに格段のご理解を賜り、文字どおり忙殺を究める日々にあられた中で、貴重な寸暇を惜しんでご高配を頂いたものと拝察し、感謝の念に堪えません。

また、先般、持病の悪化によりやむなく御辞職に至られたところですが、揮毫をお願いした時期は病魔との闘いの日々でもあられたことを拝察し、そのお志に今更ながら深い感銘を覚えます。

顕彰碑建立の経費は、地元益城町の皆様はもとより、全国有志の約 350 人の皆様から浄財をお寄せ頂きました。中には著名な方々のお名前が幾人もあり、文科省認可の公益社団法人である文化団体のご支援も頂いて、まことに光栄に思うところです。

また、台湾の皆様からも李登輝元総統を始め、元大使、総領事を始め、台中市大甲の皆様からもご芳志をお寄せ頂きました。

ことに、大甲の皆様には、大甲街を貫流する大安溪の河原に何度も出向かれ、碑の飾り石として使用する 3 つの雅石をお送り頂きました。その 3 つの石には、志賀先生が信条としておられた「慈悲」「節儉」「謙虚」を意味する文字を刻んで顕彰碑の台座に貼り付け、日台共同による建立の証としました。台湾から石を搬送して頂くのには様々な手続きが必要であり苦心されたようですが、大甲の皆様の誠意と熱意にあらためて御礼を申し上げます。

このように日台両国の多くの人々のお力によって建立された顕彰碑は、志賀先生をお偲びするよきよすがとなりますとともに、今後、親日国台湾との国際友好親善のシンボルともなります。

顕彰碑をどこに建立するかについては、本会内部で度々検討がなされ、紆余曲折を経て、最終的に、かつて津森村の中心地であった上陳の広場に建てることとなりました。

この広場は、旧四賢婦人記念館跡地に隣接しておりますので、将来、一体的な公園化を図り、志賀先生、四賢婦人を始め、郷土の先人の遺徳をお偲びする場、人々の交流の場、子どもたちの教育の場、また、国際交流の場として幅広く活用して参りたいと考えております。

本会としましては、顕彰碑建立を機会に、熊本が生んだ偉人、志賀哲太郎先生の顕彰をさらに推し進め、益城町民、熊本県民の皆様が郷土の誇りとして頂けるよう、また、何より子どもたちの希望につなげられるよう、生涯教育、国際交流・教育を中心として、様々な分野に事業を発展させて参ります。

皆様におかれましては、本会への更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

■ 推奨のことば

永田 壮一（本会顧問・医療法人永田会理事長）



平成 28 年 4 月の熊本地震により益城町は甚大な影響を受け、私が経営しておりました東熊本病院も壊滅的な被害を被り、閉院を余儀なくされました。

地震発生後、「はびねす」内に設置された上益城郡災害医療調整本部の本部長として、災害医療の統括を仰せつかった私は、先ずは地域の皆様に安心を与えるのが医師としての使命と考え、町内 17 の医療機関と連携し無我夢中で緊急事態に対応したことを思い出します。

そのような状況下で、当院は、復興事業としての県道 4 車線化に伴い同地再開を断念せざるを得なくなりました。父の代から 55 年に亘り続けて参りました地域医療の火を消すのは断腸の思いでしたが、持てる医療資源を東熊本第二

病院に移転し、さらには益城町の皆様にもより高度な医療を提供すべく菊陽町で医療を再開し更なる医療の充実に努めております。

益城町には昭和 58 年から平成 28 年まで 33 年の長きにわたって皆様と身近に接してまいりましたので、格別の愛着があります。益城町と住民の皆様の一日も早い復興と発展を願ってやみません。

町の復興と発展に関し、一つ申し上げておかなければならないことがあります。それは、将来的な地域の発展に欠かせない青少年育成の課題です。

私は、地域医療に従事する傍ら、国際ロータリーの多くの奉仕活動に力を注いで参りました。国際ロータリーは世界 120 以上の国と地域に 120 万人の会員を擁する世界的な奉仕団体です。2017～2018 年にかけて 1 年間は、第 2720 地区（大分県・熊本県）の地区ガバナーとして活動しました。

ロータリー活動の大きな柱に青少年奉仕活動があります。その中でも特に青少年交換は、全世界の 15 歳から 18 歳までの子供たちを数週間から 1 年間交換学生として派遣・受け入れをする事業です。

当地区でも多くの高校生が日本からアメリカ、オーストラリア、フランス、台湾などに赴き、現地の学生宅にホームステイ一緒に学校に通学し勉強しながら、相手国の文化を学ぶ事業に参加しています。

4 年前からは台湾・高雄のロータリアンと協力し相互訪問も実施していました。本年のコロナ禍により今年から来年にかけての青少年交換事業は中止となりましたが、再開後は多くの益城町の子供たちにも参加を促していきたいと思えます。

県内では国際交流を活かした教育の先例として産山村のヒゴタイ交流があり、きめ細かな取り組みにより大きな成果を得ていることが知られています。これは 30 数年前、当時の村長や教育長が「山村で育った子供たちが社会に出て行ったときに物おじしない人間に育ててほしいが、どうしたらよいか？」と頭を悩ませていたとき、村の農水ダム事業の関係で出張で来ていた農水省の職員に相談したところ、その職員の方が「外に目を向けさせるのが一番」とすぐさまタイの大使館勤務の友人に助成を依頼し、カセサート大学の付属中学校を紹介され交流が始まったというものです。

毎年 5 人の子供たちの相互ホームステイによる交流が行われ、その子供たちが核となって学校がみるみる変わっていったといいます。教育長によれば「産山村のことを知って誇りを持ちなさい、英語も勉強しなさい、といくら言っても耳を貸さなかった子供たちが、外の空気に触れたとたん、自発的に村の事を調べ、英語も勉強するようになった」といいます。青少年教育において視野を広めることが如何に重要なことであるかを端的に示している事例です。

国際交流事業は、青少年の育成だけではなく、異文化の相互理解による国際親善、貿易による産業振興など様々な側面があり幅広い展開が期待できます。

私たちの病院は益城町から離れてしまいましたが、できる限り益城町の皆様に貢献したいと思っております。医療活動はもとより、国際ロータリーの青少年奉仕プログラムや、国際社会に貢献する国際奉仕プログラムを通じて国際交流事業を推進し、地域の更なる発展を支援してまいります。

志賀哲太郎先生を介した本会の台湾との小さな民間外交の積み重ねが、様々な形で益城町の発展につながることを期待し、多くの若者がこの町から世界に雄飛していくことを切に祈念いたします。

■ 大甲の聖人と呼ばれた志賀哲太郎

片倉佳史（武蔵野大学客員教授・台湾在住作家）

（編集者註：本稿は、公益財団法人日本台湾交流協会の台湾情報誌「交流」No.950・2020.5に掲載されたものを、執筆者及び発行者に特別の承認と許可を頂いて転載したものです。）

大甲は台湾島中西部の沿岸にある小都市である。現在は台中市に組み込まれ、大甲区となっている。文化の街としても知られる大甲だが、ここに26年にわたって教育に携わった人物がいる。今回はこの志賀哲太郎の生涯と大甲の関わりについて述べてみたい。

●台湾中部の都市・大甲に息づく一人の教師

大甲（たいこう）は大安溪と大甲溪によって形成された沖積平野の上に位置する町で、人口は約7万7千人。周囲は豊かな田園地帯が広がっている。新竹・苗栗地方の沿岸部のように風害・塩害に苦しめられることもなく、古くから穀倉地帯となっていた。また、日本統治時代は大甲帽（パナマ帽）の製造で知られ、台湾を代表する地場産品となっていた。

また、航海の女神として親しまれる媽祖信仰の総本山「鎮瀾宮（ちんらんぐう）」があり、媽祖の生誕日である旧暦3月23日頃には盛大な祭事が開かれ、街は信徒で埋め尽くされる。普段は静かな地方都市の情緒に包まれているが、数多くの人材を輩出した街でもあり、文化の気風が色濃く漂っている。

筆者は数年前、熊本在住の野元政司氏の紹介を得て、熊本出身の志賀哲太郎という人物の墓地を訪れた。大甲の鎮瀾宮は何度か訪れていた。台湾の地方都市ならではの落ちついた空気が漂い、魅力的な土地である。しかし、志賀哲太郎という人物は知っていたものの、訪れる機会がなく、念願かなっての取材となった。

長らく、志賀哲太郎についての記述は、『台湾と日本・交流秘話』（展転社）が唯一という状態だった（永山英樹氏が執筆を担当）。筆者もこの書籍で志賀哲太郎という人物を知ることになった。

現在、志賀哲太郎については顕彰会が組織されており、豊富な内容を誇る資料集が刊行されている。その編者であり、著者でもある増田隆策氏は、足かけ4年の歳月をかけて文献・史料を当たったという。そして、郷土史研究家の張慶宗氏と連携を取り、綿密な現地取材を経て、この資料集をまとめあげた。

志賀が生を受けたのは1865年、世を去ったのが1924年のことなので、すでに1世紀という歳月を経ている。1千名を超えるという大甲の教え子たちも多くは故人となっている。取材や調査が難しいことは言うまでもあるまい。

本稿では160ページにおよぶこの資料集をもと

に、「大甲の聖人」と謳われる志賀哲太郎の生涯をたどってみたい。



資料集はまさに圧倒されるような迫力で迫ってくるものがある。増田隆策氏の思いが伝わってくる一冊だ（志賀哲太郎顕彰会編）。



大甲の鎮瀾宮は媽祖信仰の本山として知られる。春には各地の媽祖廟を神像と信徒が巡る「媽祖遶境進香」が催される。

●肥後の国に生を受ける

大甲の郊外に鐵砧（てっちゃん）山という山がある。高さは236メートルほどなので、小高い丘と言ってもいいほどだが、頂からは大甲の街と、遠くに台湾海峡の海原が見える。

その南麓に一人の日本人の墓地がある。その人物は志賀哲太郎と言い、日本統治時代に当地で教師を務めた人物である。

志賀の墓地は山肌にあるため、見晴らしがいい。敷地は広く、周囲には志賀の教え子たちの墓園が、それぞれ志賀の墓碑を守るかのように並んでいる。教え子から死後までも共にいたいと願われる教師とはどのような人物だったのだろうか。

志賀は1865（慶應元）年8月28日に肥後国田原村（現在の熊本県益城町田原）で生まれた。幼名は岩太郎。向学心旺盛な子供で、家の手伝いをこなす傍ら、学業に励む毎日だったという。その後、私塾で学び、21歳で上京を果たす。そして、明治法律学校（現在の明治大学）に進んだ。1887（明治20）年のことだった。

父の死去に伴って帰郷した志賀は、熊本で結成された政治団体・国権党の党员となり、九州日日新聞（現在の熊本日日新聞）の記者になった。この頃は政治活動に深く関わるようになっていたが、間もなく政界を離れ、教育の世界に進むことになる。そして、領台翌年の1896（明治29）年、12月に台湾へ渡った。志賀は31歳になっていた。

日本統治時代の半世紀、台湾総督府は学校の整備を熱心に進めた。領台当初、台湾の児童の就学率は1%程度だったが、各種制度と環境を整え、終戦前年の1944（昭和19）年には児童就学率が93%にもなっていた。言うまでもなく、これは世界でもトップレベルの水準だったが、志賀はその黎明期に台湾へ渡ったのである。

●台湾での暮らしが始まる

志賀は当初、台北の新徒町（現在の西門町界隈）に居を構え、酒屋を経営しながら、台湾語（ホーロー語）の習得に励んだ。しかし、翌年には台中へ向かっている。当時の台中は熊本県出身者が多く暮らしており、そこに生きる術を求めた。

この頃は、基隆（きいるん）と高雄（当時の表記は「打狗」）を結ぶ縦貫鉄道が敷設中で、志賀はここで工事関係者を相手にした店を始めたという記録が残されている。

志賀が暮らしたのは台中の市街地ではなく、人里離れた三叉河（現在の三義）に近い伯公坑（はくこうこう）と呼ばれる場所だった。ここは勾配区間が続き、いわゆる「難所」だったので、多くの工員たちが集まっていた。志賀はここで工員を相手に商売する店を始めた。

志賀はここで島村ソデという一人の女性を雇っている。ソデは志賀と同じく熊本県出身で、婚姻関係はないものの、最期の時まで志賀と人生をともにした女性となった。



大正13年に撮影された志賀哲太郎。
領台初期に台湾へと渡った。

当時の台湾は治安が悪く、日本による統治を甘受しない勢力がゲリラ戦を展開していたほか、「土匪（どひ）」と呼ばれる武装集団が跋扈していた。

志賀も襲撃に遭い、この時は事なきを得たものの、後にマラリアに罹ってしまう。当時、マラリアは何よりも恐れられていた病であり、一度罹れば7割は助からないとまで言われていた。

志賀は人力車に載せられ、伯公坑を離れた。そして、運び込まれた場所が運命の地となる大甲だった。医療施設のようなものはなかったため、市街地にある鎮瀾宮で治療が行なわれた。当時、ここは陸軍衛戍病院の大甲分院とされていたが、実態は名ばかりのものだった。志賀はソデの看病によって一命を取り留めた。

●「大甲」の地と出会う

1899（明治32）年、志賀は大甲公学校の教員となる。公学校とは台湾総督府が設けた初等教育機関で、1898（明治31）年8月16日施行の公学校令によって設けられた。当時の学校は内地人（本土出身者とその子孫）が通う小学校と、本島人（漢人系住民子弟）が通う公学校、そして、山岳地域に暮らす原住民族の子弟が通う蕃童教育所があったが、志賀は公学校の雇い教員として職に就き、その後、26年もの間、奉職することになる。

雇い教員とは戦前の日本で見られた職位で、師範学校卒業といった教員資格を持たない初等教育機関の教員で、いわゆる代用教員のことである。

2月に大甲に赴いた志賀は、台湾の土着言語で

ある台湾語（ホーロー語）を習得し、5月頃から教鞭を執ったとされる。

当時の台湾には教育の概念そのものがなかった。生活も貧しく、日本による統治が始まったばかりの混乱期でもある。学校に子供を通わせる父兄は皆無に近かった。そのため、教員たちは学齢期の子供を持つ家庭を訪ね、教育の重要性を説いて回らなければならなかった。

志賀に限らず、領台当初の台湾、特に都市部以外の地域に赴任した教師や警官たちは、例外なくこういった役割を兼務していた。当然ながら、言葉が通じない不便や交通機関の未整備、そして、治安が安定しない中のことなので、その労苦は想像し得ないものがある。志賀の場合、大甲のみならず、近隣の外埔（かいほ）、内埔（ないほ）、大安（たいあん）、日南（にちなん）などにも足を延ばしていたという。

学校の設備も名ばかりのもので、貧相極まるものだった。大甲の場合も教室となる建物が用意できないため、市街地にある大甲文昌祠の一室を利用して授業が行なわれた。ここから志賀の教師人生は始まったのである。

大甲公学校校歌

一、
南の國の中つ方
大甲原に地をしめて
日に新たなる日の本の
久遠の榮を祈りつ
集うや健兒千四百
集うや健兒千四百

二、
鐵砧山（てっちんざん）の霧晴れて
黎明光り
ひじりの君の大みこの
仰ぎかしくみ進み来る
歴史榮ある學舎よ
歴史榮ある學舎よ

●「植民地」という矛盾の中で

台湾の経済が発展を遂げ、社会が成熟していくと、様々な「歪み」が生じるようになる。台湾総督府は同化政策を進めていくが、同時に台湾の人々は、不平等に気付くようになっていった。

1913（大正2）年1月22日、台湾総督府は公文書における漢訳文を廃止すると決定した。それまで、庁命令、告示、告諭などといった公文書には、漢訳文を付していた。しかし、国語のより一層の普



大甲文昌祠。志賀の教師生活はこの廟の一室から始まった。日本統治時代の古写真。

及を目指すという名目で、訳文の記載が廃止されたのである。

これに対し、各地で反発が起こった。志賀もまた、民族平等を信条としており、台湾の土着文化を尊重する姿勢を貫いていた。そして、総督府の決定に反対の姿勢をとった。

志賀は台湾の人々におもねるような一面はなく、あくまでも自身の教育理念に従って生きていた。しかし、こういった理想は現実と向かい合う中で、徐々に軋轢が生じていく。



大甲附近の地図。教え子たちは広く社会を担う人材となっていたが、帰省すれば、必ず恩師を訪ねたという。また、大甲公学校の台湾人教員は多くが志賀の教え子であった。

志賀は台湾の伝統文化を軽視してはならないという信念を持っており、以前から、総督府の政策と方針に異議を感じていたようである。当然ながら、人々からは慕われるが、その一方で、官憲との関係は複雑なものになっていった。そして、苦悶の日々を送ることになる。

1921（大正10）年10月17日、台湾人の自治を求める「台湾文化協会」が発足する。林獻堂や蔣渭水が中心となり、台湾人の文化啓蒙と民族意識高揚を訴えた。志賀はその理念を評価していたというが、これがもとで官憲との軋轢が決定的なものとなった。

人格者として知られ、志賀とも親しかった大甲公学校の金子政吉校長は同僚のやっかみがもとで、職を解かれ、大甲を去った。この金子校長も多くの人に慕われた人物で、大甲公学校を辞した後、台湾総督府工業講習所の書記となった。金子は1938(昭和13)年に脳溢血で他界したが、翌年に教え子たちは大甲公学校内に石碑を設けた(残念ながら現存しない)。

●一生涯、雇い教員を貫いた理由

金子校長の後を継いだ校長と志賀は、そりが合わなかったようである。生徒や父兄、そして同僚となる台湾人教師から篤く慕われる志賀に対し、校長は嫉妬したようである。

志賀は校長によって様々な形で疎まれたが、そこにはもう一つの理由があった。それは昇官を嫌ったことである。

志賀は出世を望まず、無私無欲の人物だった。生涯、雇い教員のみで大甲の暮らしを貫いたため、時には教え子が師範学校を卒業し、正規教員として郷里に戻ると、「雇い教員」の志賀よりも上席に座ることもあった。それでも、志賀は一向に気にする様子を見せなかったという。これもまた、志賀の「生きざま」が伝わってくる逸話と言えよう。

1924(大正13)年に撮影された一枚の古写真が残されている(澤田寛旨氏所蔵)。羽織袴姿の志賀哲太郎である(4ページ)。

通常、教師は判任官(大日本帝国憲法下における下級官吏)となった時点で、文官服を着用し、剣を吊る。しかし、教育とは威圧的であってはならず、剣などを吊っているのは真の教育は行なえないという考えの志賀は、昇官を固辞し続けた。そして、「教育とは子どもの知能を啓発し育てるものであり、役人根性を以てこれを律するのは教育の道に反する」という強い信念を持っていた。

こういった考え方だったこともあり、志賀は自らの経歴を語ることはなかった。そのため、人々は誰として志賀の過去を知ることはなかった。志賀が提出した履歴書には、明治法律学校で法律学を専攻したことは記されていない。これは高学歴であることを書けば、必ず任官させられるからである。また、国権党時代の政治運動や記者時代のことも、口にできなかった。

任官を嫌ったもう一つの理由として、転勤の可能性を挙げなければならない。大甲という土地を愛し、大甲の人々と常にとともにありたいと願った志賀は、この地を離れることは望まなかったのである。

志賀は大甲の子供たちの教育に人生を捧げる決意をしていた。そして、人々の中に溶け込み、人々のために生きる覚悟を決めていたのである。志賀は台湾の地を踏んで以来、一度も帰郷したことがなかった。ただひたすら、大甲という土地を愛し、教育に生涯を捧げたのである。

●26年間無欠勤を貫いた教師

しかし、何度となく昇官を持ち掛ける校長に対し、固辞し続ける雇い教員という関係は、徐々に人間関係を複雑なものにしていった。

1924(大正13)年、大甲公学校高等科の学生と日本人教師の間で諍いが起こり、学校はこの学生に対し、退学処分を決めた。これを受け、生徒の親は志賀に仲介を求めた。志賀は校長に処分撤回を頼み込んだが、校長はこれを拒否し、さらに、志賀を教壇から退け、学校農園の管理をさせることを決めた。つまり、志賀は教育の現場に立つことを否定されたのである。

1924(大正13)年12月21日、この日、志賀の勤続25周年祝賀会が開かれた。この時は300名もの人が集まり、台中州知事、台中州内務部長、大甲街長ほか、街の有力者や教え子たちが志賀を祝った。志賀は壇上に立ち、涙ながらに感謝の気持ちを伝えたという。



志賀哲太郎を報じた台湾日日新報の記事(筑紫聡網より転載)。

志賀の教育姿勢は「厳格」という一言で示せる。他人に対してだけでなく、自らにも厳しく、在勤26年間にわたって無欠勤だった。大甲公学校の校長を務めた金子政吉の書簡によると、実は志賀は病気に罹ったことはあったが、それでも必ず一度学校に来て、出勤簿に捺印の上、帰宅したという回想が記されている。志賀は、「子供のいない自分としては、一身を犠牲にし、全てを捧げる決心をしている」という言葉を残しているが、有言実行そのものである。

一方で、厳しいだけではなかったという一面も容易に推測できる。志賀は生徒のみならず、地域住民

に深く慕われていた。また、清廉潔白な人柄で、謙虚な人物だったという。礼儀を重視し、誰に対しても丁寧に挨拶をする。たとえ、相手が児童であっても礼には礼をもって返すという生真面目な一面も持ち合わせていた。

●式典の一週間後、悲劇はやってきた

盛大な祝賀会からわずか一週間後、誰もが驚く事態が待っていた。

1924（大正13）年12月28日未明、志賀は毎日4時に起きる暮らしをしていたが、この日もいつもと変わりなく、この時間に起き、羽織袴姿で家を出たという。そして、帰らぬ人となった。

行き先は完成したばかりの水源池だった。身体に9キロもの石を括り付け、入水自殺を図ったのである。遺体が発見された際には、すでに息絶えていたという。

葬儀は12月30日に執り行なわれた。教え子たちが準備を行ない、中央の祭壇に霊柩が置かれた。右側には遺族席が設けられたという。志賀に遺族はいないはずだが、ここには教え子たちが先を競って座ったという。参列者は多く、会場に入れないほどだったと伝えられる。

この時、教え子を代表して、呉淮水という人物が弔辞を読み上げた。その文面は残っており、意義のあるものなので、以下に全文を掲載したいと思う。

弔辞

大正十三年十二月三十日、故志賀先生の御霊前に、大甲公学校出身門下生謹みて一言を告ぐ。

先生は明治三十二年二月、本校に教鞭を執られ、当時の台湾、当時の大甲、悪戦苦闘二十有六年、一生一代をつくして今日における先生の大甲を建設せらる、その結果、我が大甲は血気旺盛なる青年の毛髪を白く染め当年の意気を奪い、遂に悩殺して、今や鉄砧山麓に老骨を葬らんとす、嗚呼哀しいかな。

聞けば往事、先生は現時中央政界に時めく政客と共に学び、共に出慮し、天下を呑まん勢なりという。その後、感ずるところありて植民地教育に投ぜられ、爾来同一の目的、同一の場所、同一の主義の下、終始一貫、二十六年を一日の如く勤続し終りたり。廟堂に座し、国事に奔走し、天下に号令す、大丈夫の本懐たるは不肖これを知る。

彼、高楼に入り、我れ情誼の校舎に起居す。彼、巨万の富を有するに対し、我れ数千の門下を擁す。国事に尽して可なるも、人材培養に尽すは更に可なり、国家に尽すは一にして、孰れが貴きか未だ量る

能はず、不肖等、不幸にして神を識らず、只至れる人として先生を信じ疑わざるものなり、然るに名慾利情に勝つ先生は、終に健康に勝てず、今や再び芳顔を拝する時なし、志賀死すとも徳は死せず、不肖を薰化して千載に至らむとす。願わくば安らかに眠り給はぬことを。

門下生呉淮水敬拜

なお、葬送の際、人々は道教式の「路祭」を行なったと伝えられる。これは祭礼方式の一つで、路傍に供物を並べ、線香を立てる。現在の台湾でもよく見かけるものだが、その意味するところは、志賀哲太郎という教師は「神」として扱われたということである。人々がいかに志賀を慕っていたかがわかるエピソードである。

なお、この日の参列者は1千人余りと言われる。そして、声を上げて哭かない者はいなかったと伝えられる。「街民挙げて聖人を見送る」という言葉は大げさなものではなかった。

●教え子が寄贈した墓地

志賀の墓地は鐵砧山に設けられた。これは志賀の教え子で、教師になった郭金焜が寄贈したものである。郭は明治45年卒業生で、戦後に大甲鎮の鎮長となった人物である（鎮は台湾の行政単位で町に相当）。

墓地は遺言に従い、台湾式で土葬された。墓碑の背後にはコンクリートで覆われた肉まん型の塚がある。ここに志賀は埋葬されている。

当初は仮埋葬だったこともあり、墓標は杉材を用いた簡素なものだったが、1925（大正14）年1月8日に墓碑建設委員会が発足。大甲公学校の校長、大甲街の街長などが名を連ねている。



志賀哲太郎墓碑。志賀は徳育を重視した教育を目指したという。大甲の就学率は台湾の平均が50%程度に対し、70%と高い数字となっていた。



背面には志賀哲太郎についての詳細な記録が刻み込まれている。

墓碑は高さ約 1.2 メートルの自然石で、1927（昭和 2）年 2 月 20 日に建碑式が催された。正面には「志賀先生之墓」と刻まれている。

墓地の前には広大な土地が広がっている。ここには教え子たちの発議によって、1940（昭和 15）年に「志賀先生記念園」が整備される予定だったが、残念ながら、戦況の悪化に伴い、実現しなかった。



墓地の前には草原が広がっている。教え子たちはここを記念公園にする予定を立てていたという。

1934（昭和 9）年 12 月 29 日には、志賀の没後 10 年となる墓前祭が開かれている。この時は教え子と大甲の街民が集まり、墓前で手を合わせた。参列者は台中州知事以下、3 千人を超えたという（台湾日日新報漢文版）。1931（昭和 6）年当時の大甲の人口は 2 万 2879 人だったので、墓前祭がいかに大きなものだったのかがよくわかる。

なお、島村ソデの墓についても触れておきたい。志賀の墓の左隣りにソデの墓碑がある。この墓碑もまた、志賀の教え子たちによって建てられた。ソデは 1930（昭和 5）年に世を去った。志賀の死後も大甲に暮らしていたが、出家したと言われている。出家先は東本願寺大甲布教所と見られるが、これは推測の域を出ない。



没後十年の墓前祭を報じる記事。台湾日日新報の漢文版。「三千余名」の文字が見える（漢文知識網より転載）。



墓碑について語る張慶宗氏。島村ソデの墓地前にて。

●志賀哲太郎墓地を訪ねる

大甲の聖人と呼ばれた志賀の墓地は鐵砧山の南麓にある。大甲の市街地からは約 1 キロの距離がある。ここを訪れると、教え子たちが志賀をいかに慕っていたかを容易に理解できる。

墓碑は山肌に設けられているが、その周囲に教え子たちの墓地が並んでいる。志賀の墓碑は大きなもので、存在感を漂わせているが、それを護るかのよう、台湾式の墓園が並んでいるのである。

北側に宋家、陳家、李家、李家、周家、蔡家と六つの墓園があり、東側に陳家と呉家の墓園がある。このうち、志賀の教え子という確証が取れているのは八名で、北側の陳家墓園には明治 38 年卒業生である陳啓明、その二つ隣りの李家墓園は昭和 2 年卒業生の李燕山が眠る。この二人は地場産品である大甲帽（パナマ帽）で大富豪となった大甲の名士である。

生前に慕われ、その教え子たちが人生を終える時にもなお、慕い続けた日本人教師。ここを訪れると、志賀哲太郎という人物像、そして、教え子たちとの関係がいかなるものだったのかが強く感じられる。

志賀は台湾という地を愛し、それがゆえに上司と衝突し、挫折。自らの命を絶った。しかし、志賀が

すべてをかけて育て上げた教え子たちは、志賀の精神を受け継いで社会に出て、台湾の「今」を創り上げた。そして、晩年は師である志賀のもとに戻り、ともに大甲の街を見つめているのである。



志賀が教員として大甲に暮らしたのは26年間。巣立っていった教え子は1000名あまりと言われている。



志賀哲太郎墓地を遠望する。周囲にはいくつかの墓園があるが、多くは志賀の教え子たちの墓である。

●大甲と熊本を結びつける存在として

そもそも、大甲の人々が志賀をして、「聖人」と呼ぶ所以はどこにあるのか。そして、聖人の定義とは何なのか。儒教においては、聖人は道徳の体現者であり、偉大さと崇高さ、心の高貴さが三大要素とされる。

志賀は生前、「慈悲、節儉、謙虚の三つがあれば、心はいつも平穏でいられる」と生徒に語っていたという。そして、実際に、教室以外では厳しい顔を見せることがない穏やかな人物だった。その生きざまは「誠実」という言葉で言い表せそうだ。

そして、日本人のみならず、台湾の人々もまた、志賀の生きざまや人柄に感銘を受け、惹きつけられる感性と美意識を持ちあわせている。こういった共有できる価値観・道徳観の上に日台の絆があり、両者の緊密な交流は存在しているのである。

先述の増田氏は、調査を続ける中で、志賀という人物がいかに大甲の地で慕われていたかに驚き、そして、それが過去のみならず、現在にも受け継がれていることに圧倒されたと語る。



日本統治時代、台湾教育の聖地とされた台北の「芝山巖」（現在の芝山公園）にも合祀された。志賀の名が刻まれた石碑が今も残る。



大甲の中心部にある文昌祠では一室を「志賀哲太郎記念室」として整備し、各種資料の展示を行なっている。河本有紀提供。

大甲の場合、志賀の教え子たちが能力を発揮し、地域の発展に大きく寄与していたこと、そして、張慶宗氏のような郷土史研究家の成果もあって、志賀の知名度は保たれてきた。現在、「志賀哲太郎顕彰会」でも、志賀に関する史料を集め、台湾とのやりとりを繰り返しているという。そして、合同慰霊祭や訪問団の派遣、講演会の実施など、様々な交流事業を行なっている。

最後に、本稿の執筆に当たり、筆者は「志賀哲太郎顕彰会」から各種情報の提供を受けた。『熊本が生んだ台湾大甲の聖人志賀哲太郎資料集』の主筆・増田隆策氏をはじめ、白濱裕氏、顕彰会の折田豊生氏、郷土史研究家・張慶宗氏、そして、志賀哲太郎という人物を今も郷土の偉人として扱い、慕う大甲の人々にも感謝の気持ちを伝えたいと思う。

■ 日本あつての台湾、そして台湾あつての日本

陳 忠 正 （台北駐福岡経済文化弁事処処長・台湾総領事）



（編集者註：この講話記録は、令和2年2月1日、台湾近代教育の先駆者、平井数馬先生の没後125周年記念顕彰会が熊本大学で行われたときに陳総領事にお話し頂いたものです。志賀哲太郎先生は、平井数馬先生ら6人の教師（六氏先生）が台湾台北市芝山巖で殉職した年の年末に渡台しておられます。また、故李登輝元台湾総統は、御生前、志賀哲太郎先生の顕彰碑建立に際し賛意を示され、令名を顕彰碑芳銘板に記させて頂いております。）

皆様、こんにちは。ただ今ご紹介に預かりました台北駐福岡経済文化辦事處の陳忠正と申します。本日は、「台湾近代教育の礎を築いた熊本出身の教育者・平井数馬先生に学ぶ講演会」に際し、大変貴重な機会を賜りまして、本当に光栄に思っております。

本日は、我が台湾の李登輝元総統のことについてお話しをする中で、平井数馬先生が命をかけて礎を築かれた台湾の教育が、現在に至っても両国の魂と魂を結んでいることとお話したいと思います。

ご存知の通り、李登輝氏は、台湾出身者として初の総統として、1988年から2000年まで、台湾の民主化を進めた人物です。1923年、日本統治時代の台湾に生まれ、今年1月15日に満97歳になられたばかりで、自分は22歳まで日本人だったと公言しておられます。日本人としての教育を受ける中で、日本思想の影響を受け、中学生の時に読んだ鈴木大拙（すずき だいせつ）の禅の本を通して「自我を抑える」という考え方を知り、その後も、日本の思想家や文学者の本、古事記にはじまる日本の古典などを熱心に読んで、深く日本思想が根付いたと、著書「台湾の主張」の中で述べています。李登輝氏だけでなく、日本統治時代に日本人として台湾で生まれ、日本語で教育を受けた人たちを「日本語族」といいますが、彼らは当時、日本人の教師から「武士道精神」を学び、大きな影響を受けて育ちました。

李登輝にとっての人生の師（「哲人王パンフレット」より抜粋）

- ・新渡戸稲造（にとべ いなそう）（1862～1933）
- ・後藤新平（ごとう しんぺい）（1857～1929）

皆様は、映画「哲人王～李登輝対話篇～」をご存知でしょうか。監督は園田映人（そのだ ひでと）さんで、日本人が描く台湾民主化の物語です。李登輝総統が、血を流すことなく中華社会初の民主国家を作り上げたこと、民主国家実現の原動力となった李登輝総統の精神の成長の過程をドラマやアニメーションを使って表現しています。園田監督は、「日本人とは何なのか？」ということをしっかり考える映画を撮ろうと思った時、色んな人を題材にいろいろ探し、たどりついたのが、日本人ではない李登輝元総統だったと語っています。

台湾は紆余曲折を経て民主主義国家になりました。李登輝総統は一連の民主改革を、一滴の血も流さずに成功に導き、ただ「台湾の人々に枕を高くして寝させてあげたい」という強い思いを貫いて成し遂げました。1961年に入信したキリスト教が精神的な支えとなり、「天下為公（天下は公のため）」という信念から私心を捨て、台湾国民の幸福を常に考えていたのです。

私が台湾外交部の本部に勤務している時、友人の紹介で、李登輝氏のご自宅に伺う機会がありました。外交部の友人と一緒に訪問した私を元総統はとても親切に迎え入れ、色々な国際情勢や台湾の発展について教えてくださいました。私も李総統と同じクリスチャンですので、気になっていることを質問しました。「総統は経済や人生哲学の本を出版されているのに、なぜ信仰の本を出版されないのでしょうか。ぜひお願いします。」すると、総統は私たちを2階の書斎に招き入れて、古い古いメモを取り出して見せました。「総統の時は辛かったですよ。でも困難に直面

するたびに聖書を開くと、不思議と必ずとっていいほど、なぐさめや助けとなる言葉があるのです。この古いメモは、当時書き留めたものです。」とってそのメモを見せ、「じゃ、出版しましょう。」と言われたのです。それから1階において記念写真を撮り、私たちは帰りました。

その後、何日かたった後、私が外出中に家から電話があり、「総統からお呼びがかかったよ！」と言われ、急いでタクシーで総統のご自宅に向いました。そこで総統は私に、信仰の本を出版するために資料を渡すからと黄色くて分厚い封筒を私に渡しました。帰ってから封筒の中身を見ると、それはあの時私が見せてもらった総統自筆の古い古いメモでした。総統時代、毎日深夜に帰宅した李登輝氏が、苦難や喧騒のすべてを家の外に留め、奥様とともに聖書を開いてペンをとり、その日の心境を記したとても大切なメモでした。困難に直面するたびに、心の安定を図ってきた時の大切なものなのです。私は当然コピーを手渡されたと思っていました。でも実際はコピーではなく、実物のメモを自分に託してくれた、そのことに、「そこまで私を信頼してくださったのか」と、とてつもなく感動しました。

その古いメモはとても簡単に書かれているものでした。書いてあるのは、出来事、日付、聖書の出典（詩篇第〇〇章〇〇など）だけでしたので、まずは当時の出来事から調べなければなりません。沢山のメモを一つ一つやりました。台湾の国会図書館に出向いて当時の出来事を新聞を調べるのは私の妹の息子に頼み、私が聖書の引用部分を調べてまとめ、そのタイプを兄の息子に頼みました。出版されるまでかなりの月日を費やしましたが、それをやり遂げたときには感無量でした。その本は中国語の出版ですが、結びの言葉の一部を日本語に訳したものをお伝えします。

『現在の私は、すでに90歳を超え、人生の終わりに近づいており、台湾社会の中で国民にプラスとなるものを残したいと願っている。12年間総統を務め、微力ながら政治の「静かな革命」、自由と民主主義、対外的な実務外交によって台湾の存在を訴えるといった台湾の経験を残した。これらの活動が成就したことはすべて神の導きにより、絶えず啓示を受けたからであり、これはすべて信仰によって得たものである。私の行ってきたすべては「主の為の私の証し」である。私は一介のクリスチャンであるが、神から多大な信仰を賜ったことにより、何の困難も恐れず、どのような大きな出来事の実行についても、古き物から脱皮し、すべて刷新するかのごとく、台湾の新たな政治改革の道に歩ませたのだ。その全ては私が神を受け入れたからである。』

『私は「私でない私」であり、私は決して自分ではなく、私も私ではない。私は「キリストが私の中に生きている」私である。』

李登輝氏は外見は台湾人ですが、心は日本人なのではないでしょうか。産経新聞編集委員からのインタビューで「安倍首相には日本だけでなくアジアの最高指導者のつもりで行動してほしい。日本の浮沈はアジアの浮沈につながるといっても過言ではないからだ」「自由かつ民主的で、経済的にも先頭を行く日本こそアジアの盟主として引き続きこの地域を引っ張っていくべきだ。覇権主義的な中国がアジアのリーダーになった場合、他国は大いに迷惑することになる」と安倍晋三首相に期待を寄せた言葉を述べています。もちろん李登輝氏は台湾のために精神的指導者として「自由と民主という価値の中に台湾を変えていくという努力を続け」ていますが、一方で日本社会への鼓舞や叱咤激励を忘れていないのです。

2009年9月8日、李登輝元総統は、小峰墓地を訪ね平井数馬先生の墓前に献花されました。台湾の教育のために命をかけた平井数馬先生もお喜びになられたことと思います。

台湾と日本とは運命共同体—日本あっての台湾、そして台湾あっての日本であると思います。現在、両国の往来は大変緊密で2019年の往来者数は約700万人を超えたと見られています。観光はもちろん経済・貿易・音楽・芸術・学術・スポーツ・ホームステイなどあらゆる分野の交流が大変スムーズに行われていますが、このように良好な関係は一朝一夕に出来るものではありません。平井数馬先生が命をかけて礎を築かれた台湾の教育が、現在に至っても両国の魂と魂を結んでいるのではないのでしょうか。これからも皆様におかれましては台湾との友好親善へのご支援とご協力の程をお願いいたしまして、話を終わりたいと思います。ご清聴、ありがとうございました。

■ 志賀哲太郎先生の顕彰

澤田 寛 旨 （遺族・熊本国際教育を進める会名誉会長）

はじめに

志賀哲太郎先生の顕彰は、先生が亡くなられた大正 13 年から現在までいろいろな形で行われてきた。私は、遺族の立場から感謝しながら纏めたい。

祖母は志賀家の長女として、曾祖母寿加様が亡くなられた後台湾の兄志賀先生と相談しながら生家の処置・墓碑の建立などを進めてきた。志賀先生については祖母からいろいろ聞いていたが、大甲の文昌祠に聖人として祀られ 90 年後の今も敬愛され、多くの方々から尊敬されていることに驚いている。このことは、3 度大甲を訪問するたびに強く感じたことである。

本県においても、昭和 40 年代から各社の報道や多くの方々の顕彰活動によって徐々に理解促進がなされてきた。特に、平成 27 年 9 月益城町に志賀哲太郎顕彰会が発会して活発な活動がなされ、益城町・益城町教育委員会ならびに益城町議会のご理解・ご協力を得て 5 年、津森小校区から益城町、さらに全県へと広がりを見せつつある。

1. 志賀家と澤田家

我が家の仏壇には右側に澤田家・左に志賀家の位牌がある。これは、曾祖母寿加様が亡くなられた



ミノと孫の寛旨（昭 4）

た 116 年前からで、私も朝晩礼拝してきた。私の祖母は、生家の隣部落の澤田家に嫁ぎ夫澤田金蔵（材木商）の理解を得ながら、母上（寿加様）の死後は兄志賀先生と連絡を取りながら生家の処置を行い志賀家の墓を守っていた。昭和 10 年 8 月ミノの夫金蔵は志賀先生の墓碑を田原の墓地に建立したが、昭和 40 年になって浄信寺に納骨堂が作られ、門徒は墓地を整理して遺骨を入れることになった。長男光男の妻イトは業者に依頼して志賀家と澤田家の遺骨を火葬し、澤田家の遺骨とともに浄信寺の納骨堂に祀った。

ミノの孫寛旨は平成元年、県内の幼小中学校の先生によびかけて大甲を訪問したが、現地の方々の志賀先生に対する敬愛ぶりに感動し、納骨堂ではなく志賀家の墓碑と志賀先生の顕彰碑を建てたいと考え、平成 2 年に熊本市宮尾尾墓園に墓地を求め澤田・志賀両家の墓碑とともに先生の顕彰碑を建立した。

祖母は、志賀先生のことを大変尊敬していろいろな話してくれた。特に、八淵蟠龍師と各地を演説して回っていたと言い、私には「先生にならにゃんばい」とよく言われた。しかし私は小学校を終えると旧制の中学校・師範学校の寄宿舎に入ったので祖母の話聞く機会がなくなった。師範学校卒業後も、自宅から通勤できる学校を希望したが叶えられないことはなかった。特に残念だったのは、初任の浜町小学校（現矢部小）から津森村に近い学校への転勤を希望したが、全く希望していない御船小に転勤したことである。この時私の願い通りになっていたら、益城町の学校での勤務となり、祖母や母とも同居でき津森校区の皆様とも親しく交遊できていたであろうが残念でならない。祖母は、私が教師になり熊本市の小学校に転勤後の昭和 34 年 92 歳で亡くなった。機織りが得意で蚕を飼い糸を紡いで大きな織機で織っていたのをなつかしく想い出す。



満鉄時代の澤田光男
（昭和 2 年・30 代）

志賀先生の影響を強く受けていたのはミノの長男光男で、「小学校から高等科まで 8 年間無欠席だった」と祖母によく聞かされたが、これは大伯父志賀先生の「無遅刻・無欠勤」に倣ったのであろう。父光男の日誌を見ると材木商だった祖父金蔵を助けて、現場での作業や各職人の管理・事務処理など精一杯の努力をしていた。高等科卒業直後からやっていた輪読会は成果を上げていたが、卒業して 6 年となり就職や兵役等で

村を離れる者が多くなり開催できなくなっていた。中止後は、夜になると毎晩のように友人宅を訪問して情報交換をしている、日誌を見ると夜家に居ることは殆どなく友人の多さに驚く。特に親しかったのは家の近くの富沢平さん（製茶業創設）で毎晩のようにお伺いしてお風呂に入り読書をして就寝すると書いている。びっくりするのは富沢さんが入隊された後も「富沢君宅ニイタリ就寝シタル八午後 9 時半ナリキ」と書いているがおそらく皆様方のご厚意に甘えていたのであろう。

また、高等科時代の恩師津田先生が宿直の時は学校に行き、先生方と談笑し「先生のそばで就寝す」とある。高等科を卒業して 6 年、度々学校を訪問し恩師をはじめ先生方と談笑し宿直室で就寝するなど驚く。交遊録の中には、八淵蟠龍氏（本願寺布教師）の次に「坂本重一氏・津森小学校教師」とあるが、この方は益城町赤井の城本誠也様（顕彰会員）のご尊父と聞き不思議なご縁を感じる。また、国有林管理者の鈴木林務官から公務の処理や報告書の作成を依頼されて連日深夜まで官舎に行き手伝っている。

受信・発信の欄を見ると驚くほど筆まめであるが、志賀先生との文通が一番多く「台湾ノ伯父上カラ上布 1 反・新聞 3 部送ラル」や「報徳実践修養講座」「大聖二宮尊徳」など「何時モ乍ラ唯々感ズルノ外ナシ 1 0 時マデ読ム」とある。志賀先生からの図書を送付によって読書の喜びを知った父は、熊本市の長崎次郎書店や古書店さらに東京興信社・博文館・東京堂・民友社・三光舎・数学会・同文館などへの発信受信が多い。（大正 3 年の日記による）祖父金蔵とは反対に、飲酒を好まず毎晩の読書が一番の趣味だったようである。

父光男は弟徳次郎と材木商の祖父を助けて奮闘していたが、材木商の経営が容易でないことを悟り自己の将来を考え悩んでいたが、祖父を説得して翌年朝鮮に渡り満鉄に入社した。弟徳次郎もやがて日本郵船に入社し船員となり神戸に居を構えた。父光男は伯父志賀先生を尊敬し、文通を通して現状を報告し自己の将来について相談していたのでこのような結果となった。

満鉄時代の父は在職 14 年間、勤務の傍ら野球部のマネージャ（日記で・部の編成や運営についての記述）や尺八の演奏（正月・ホールで演奏）など活躍していた。父の死後（昭 4.3）平壤から持ち帰ったものを見ると趣味の多様さに驚く。それにしても大伯父志賀先生をよく知る父が健在であつたら、志賀先生の事績の調査・書籍や遺品の保存などを元に顕彰活動を進めたであろうが、私の誕生 40 日後（昭 4.3.11）に 35 歳で亡くなったのが惜しまれてならない。

志賀先生は、神水義塾で八淵蟠龍師から仏典を学び師の講演・説教に同行していたが、政治の世界から絶縁し教育者になったのは八淵師の影響によるものであろう。資料集の編著者増田隆策氏は「大甲の聖人と呼ばれた哲太郎の自由・平等・博愛の精神は、蟠龍の影響により形成されたものと思われる。」と言っておられるが同感である。

2. 教え子達の顕彰・生誕 100 年祭顕彰

志賀先生は、大甲公学校に 26 年間勤められ、1,000 人に及ぶ教え子達の敬愛の念は驚くほど強い。先生の死後、教え子達の顕彰・熊本での顕彰について概要を記す。

- ・ 葬儀（大 13）：3 日後に正月を控えていたので、教え子たちが準備して遺族席に座り、教え子代表の呉淮水が弔辞を読むときは参列者一同が泣いた。葬儀後、路祭として神輿行列同様の葬列は街中の人々が参加して 1 キロメートルに及んだ。
- ・ 芝山巖合祀（大 14）：台湾教育に従事した功労者として合祀される。
- ・ 墓碑建立（昭 2）：大甲が見下ろせる鄭成功ゆかりの鉄砧山に建立。日本各地の墓を参考にした。
- ・ 没後 10 周年墓前祭（昭 9）：卒業生・台中州知事・教育関係者・公学校・女子公学校・各種団体など約 3,000 名が参列。志賀先生死して 10 年のこの参列者の数で先生の偉大さがわかる。
- ・ 墓碑撤去拒否（昭 27）：終戦後、台湾にある日本人の墓碑を撤去し遺骨を持ち帰らせる計画に対し、教え子達は日本大使館に行き「先生の墓を動かさないでほしい」と嘆願し了承される。
- ・ 生誕 100 年祭挙行（昭 41）：台湾・東京・神戸・熊本などから 100 余名参加。
記念碑建立。伝記発行・銅像の建立・映画製作などを計画（戒厳令のため前 2 項のみ実現）

- ・ 志賀墓苑埋没：生誕 100 年祭の数年後の大雨による土砂崩れにより墓地が埋没したので教え子たちが土砂を除去し、墓所を守るために擁壁を建設しその上に自らの墓所を作った。
- ・ 志賀墓苑の周囲に教え子達の墓所が集まる：「死んだら先生の墓のそばに埋めよ」と言い残した。
- ・ 平成 23 年、台中市大甲区長蔡氏は志賀先生を文昌祠に入れ「志賀哲太郎記念室」を設置しその遺徳を顕彰。文昌祠は学問の神様・文昌帝君を祀る廟で、志賀先生も合祀されている。参拝者が多い。



- ・ 区民等に対する啓発資料作成

「台湾大甲の聖人 志賀哲太郎」（簡介）・志賀先生の小伝「日本九州上益城郡津森村人」の記述
 「台湾大甲の聖人 志賀哲太郎」（簡介手冊）・文昌祠見学者に配布
 「大甲 文昌祠」（志賀哲太郎記念室・写真入り、4 ページで紹介）
 大甲最早的學校 第三級古蹟「大甲 文昌祠」（写真入り、8 ページで紹介）

- ・ 慰霊：毎年、清明節には大甲区長はじめ多くの区民が参拝して花を捧げている。（右写真参照：中央は劉來旺前区長）
- ・ 熊本で顕彰会設立（昭 49）：伝記の執筆を熊本出身で中学 5 年間に台湾総督府中学で学び、熊本の第五高等学校に進まれた桑野豊助氏に依頼。福本敬介氏と紀伊進氏は大甲の関係者と打ち合わせをしながら下記の顕彰会を設立した。



<志賀哲太郎先生顕彰会設立>

幹 事	（日本側）	紀伊 進、桑野豊助	（台湾側）	呉 淮水、福本敬介
後 援		熊本県日華親善協会会長		坂口主税（熊本市長）
賛助員	（台湾側）	陳廷岳（大阪華僑会名誉会長）	呉淮水（教え子 代表）	他 9 名
	（日本側）	川口卯一（益城町長）	林田明生（津森小校長）	矢野幸司（元津森村長）
		富永愛夫（元津森村長・益城町長）	松山茂七（益城町教育委員長）	他 5 名

伝記の執筆を依頼された桑野豊助氏は、昭和 49 年 3 月初旬現地取材のために福本敬介氏と大甲に赴き、教え子の長老たちと会い、先生の思い出や敬慕の心を親しく聞いた。

桑野豊助氏は伝記の「あとがき」の中で「聞けば聞く程先生の偉大さというか、台湾の子弟を愛する心や徳育を主とした教育の方法、日常生活、台湾人との交渉の深さなどが知らされ、台湾人子弟への影響がいかに大きかったか、追慕の情の深さなど、現代の人の思いを越えるもので、台湾の子弟がかくも神の如く慕うのに・・・」と書いておられる。3 日間の滞在であったが志賀先生に対する教え子たちの敬慕の情は十分伝わったようである。

桑野豊助さんにお目にかかったのは昭和 50 年 5 月熊本市立黒髪小学校の校長室であった。当日、私が熊本市教育研究所から帰校すると桑野さんが待っておられた。そして、伝記の執筆を依頼されたからの経緯、特に大甲で会った教え子たちの志賀先生に対する熱い敬慕の心を話された。そして、「もっと早くお会いしたかった」と言われた。志賀先生については昭和 40 年代に熊日でも度々取り上げられていたので、知り合いの H 論説委員長には遺族だと話題にしたこともあったので H 氏から聞かれたようだ。桑野さんは、熊日に「くまもと商家ものがたり」を連載しておられたのでお名前は知っていた。退室される時に「今度増刊する時には先生のことをぜひ書きたい」と言われたが実現することはなかった。博学で台湾を愛するあたたかい人情味あふれる方であった。この伝記本は数十冊求め要望に応じて頒布したが、私の知人やその勤務校の職員・台湾で教職にあり終戦後帰国された先生や熊大の日本文化研究会の学生などであった。

<生誕 100 年を迎えて熊本で志賀先生を大きく取り上げた新聞各社>

- | | | | |
|-------------|-----------------|-------------|------|
| ・昭 41,7,8 | 教え子が生誕 100 年祭計画 | 銅像や伝記を出版 | 朝日新聞 |
| ・//41,9,29 | 教え子らが生誕百年祭 | 台湾の故志賀氏 | 熊日 |
| ・//42,7,29 | 映画化される大甲聖人 | (益城出身の志賀さん) | |
| | 教え子が遺徳慕い | 日台文化のかけ橋に | 熊日 |
| ・//44,10,31 | 志賀先生の霊安かれ | 26年間の師弟愛今も | 熊日 |

<昭 51.3.13 志賀哲太郎 熊本が生んだ台湾・大甲の聖人 熊日記事>

志賀哲太郎。明治から大正にかけて台湾にあって異郷の子弟の教育に一身を捧げた郷土の先人である。熊本にも顕彰会が組織されているが、その名はあまり知られていない。しかし、台湾の現地大甲にあっては ” 聖人 ” として尊敬されているという。ここにその足跡をたどり、あわせて台湾に滞在して郷土の先人の顕彰に力を尽くしている日本農業科学研究所長の福本敬介氏（球磨郡深田村出身）に一文を寄せてもらった。

「民族を越え、愛そそぐ 志賀先生という人」 福本 敬介



筆者

「志賀先生の教え子たちは、先生が亡くなられて五十年たっても先生を慕い、先生の生誕百年を記念し、昭和 41 年に墓前祭と追悼の宴を行っている。生き残っている教え子たちが世界の各地から百余人も集まり、記念事業として記念碑の建立、伝記の出版、映画化などを決議し、その実現に努力していることを知った。私は昨年 1 月 19 日、この記念碑の除幕式に参列する機会を得たが、今は年老いた教え子の人たちが、墓前に香華を供え、記念碑の前にひざまずき涙を流しながら祈る姿を見て、万感胸に迫るのを禁ずることができなかった。」
(熊日、一部抜粋)

3. 生誕 150 年記念顕彰会の活動

志賀哲太郎顕彰会は、平成 27 年 9 月 6 日に益城町で発会した。

発会して 5 年間の活動は充実した内容で、会長・事務局を中心に素晴らしい活動であった。私も一会員として参加したが会員の皆様方に遺族として心から感謝申し上げたい。

志賀哲太郎顕彰会の発会までの経緯は、木原稔先生（衆議院議員・首相補佐官）が自民党青年局長として台湾を訪問された際、「台中市大甲に聖人として祀られている熊本県出身の人がいる」と聞き文昌祠を訪問して志賀先生を知った。帰国後にこの話を益城町の植山洋一氏に話し生誕 150 年が近いことも話された。植山氏は折田豊生氏・白濱裕氏と相談して郷土史家松野國策氏に会長をお願いした。

<発会後の主な活動>

発会式 (H27.9.6)、熊日で紹介 (発会、小傳・資料集出版、パネル展他)、実行委員会開催 (27~)、広報ましき (10 月号)、津森文芸祭・益城町文化祭でチラシ配布、台湾大甲訪問：交流・墓参 (28.2) 志賀哲太郎小傳出版・配布 (29.2)、パネル展開催：各地 (29.2~)、会誌発行 (29.3~)、志賀家墓所・生誕地の標柱設置、研修会・講演会開催 (県内各地)、大甲訪問：交流・墓参・調査・研修 (29.11)、資料集出版 (29.12)、顕彰の集い：講演会・大甲区訪問団の来日・交流 (30.2)、志賀哲太郎とその時代出版 (31.2)、顕彰碑建立 (R2.12)

「志賀哲太郎小傳」出版 (H29.2.28) 主筆の松野陽子様ならびに関係者の皆様のご努力で、親しみ易い伝記本ができ志賀先生の理解促進に活用されている。

私の志賀哲太郎顕彰会との出会いは、志賀先生の導きと思われる不思議なものであった。

私は、平成 27 年 8 月 5 日午前 10 時に益城ゴルフクラブに行き故紀伊進さんと会って、志賀先生の資料を渡し説明していた時電話がかかってきた。電話の途中で紀伊さんは「ここに澤田さんが来ておられる、志賀先生の遺族ですよ」と言って携帯を私に渡された。私は自己紹介をして志賀先生との関係を話し、これから益城町の学校と台湾の大甲国民小学との交流を始めたいので 8 月 10 日に益城町教育委員会に行くことを話した。電話の相手は白濱裕先生だった。

5 日後の 8 月 10 日 9 時 40 分頃役場に着くと、4 名の方が寄ってこられ「澤田さんですか」と言われた。この時初めて志賀先生の顕彰活動をしておられる皆さんとお会いした。私は益城町の有志の方々が志賀先生の顕彰活動を始められることに驚いた。いろいろ質問されたのでお答えしていたが時間がないので、平成 10 年に開設した私の会のホームページに志賀先生を紹介しているのでご覧下さいとアドレスを記載した名刺を渡した。

この日の教育委員会訪問は、学校長に会う前に教育委員会の了解を得たいと考えたからである。教育委員会では、志賀先生の資料を渡して私が考えている大甲と益城町の学校間交流について提案した。

数日後津森小学校の田中校長先生にお会いして志賀先生の資料を渡し、私が実施した外国の学校との交流事例を紹介し大甲国民小学との交流企画について話した。田中先生は私の説明をよく聞いていただき「後日講演をお願いしたい」と言われたが、講演は実現せず田中校長はご退職になり残念であった。

益城町での顕彰会設立と私の顕彰活動開始が同時期になったのも、大伯父志賀先生のお導きだったような気がする。

4. 大甲との交流

私は平成 1・28・29 年に大甲を訪問したが、訪問するたびに大甲の方々が志賀先生を敬愛しておられることに驚く。何度行っても最高の歓迎をして下さっているようだ。「志賀先生の偉大さは大甲に行けば分かる。」わたしが受けた感動を紹介したい。

<熊本県国際理解教育研究会「日華交流の翼」訪問団 H1.12.23~(4泊5日)>

私は昭和 56 年頃から日韓親善をめざす「むくげの会」に入会し活動（この会で県広報外事課長だった藤門豊明氏と出会い親しくご指導いただき現在に至っている）。昭和 60 年に県の国際交流室や熊日の関係者・国際交流団体の代表者で「国際交流研究会」（現在の県国際協会設立の準備）など活動していたが、県の教育目標の一つである「国際意識の高揚」を進めるために、昭和 62 年 9 月表記の研究会を設立した。この会は県国際課・県教委・熊本市教委などの期待が大きく熊日の報道もあり設立後の活動は活発であった。



この研究会では、設立の翌年に熊本市立帯山西小（私の在勤校）が交流していた韓国大田市宝雲国民学校を「日韓交流の翼」として参加者 29 名で訪問した。翌年は「日華交流の翼」19 名参加で 1 日目に大甲鎮公所を訪問し歓迎会・志賀先生墓所で墓前祭。大甲鎮公所と教え子の李燕山氏の対応に参加者一同感動した。5 日目に帯山西小が交流していた台湾桃園県西門国民小学（児童数 2,800 名・前年に同校の弦楽合奏団が帯山西小で演奏会・交流）を訪問した。

写真は、バスから降りて墓所に向かう訪問団で、左から 2 番目はお供え物を運ぶ李氏 3 番目は私である。この時初めて、嵐で墓所が土砂に埋まり教え子たちがそれを除去し、今後このようなことがないように擁壁と墓所が作られたことを話された。

志賀先生の墓所での墓前祭終了後に、強く乞われて李燕山さんのお宅に行き談笑した。大きくて立派なお宅であった、帰りに参加者一同記念品を頂いた。李燕山さんは熊本の志賀家の墓への参拝

を希望しておられたが実現できなかった。

<顕彰会先遣訪問団 H28.2.26~29>

顕彰会として最初の大甲訪問（7名）であったが、大甲の皆様の志賀先生に対する敬愛ぶりが全旅程で感ぜられ感銘を受けた。特に、公所での歓迎・墓前祭・文昌祠：志賀哲太郎記念室（参観者への案内）・市内各所の視察・昼食会・「志賀哲太郎 簡介」（簡単な小伝）出版など劉來旺区長はじめ公所の皆さん方のあたたかいお心づかいに感動し帰国した。この訪問は顕彰会として初めての大甲訪問であったが廣瀬勝氏の企画により円滑に運んだ。

<顕彰会第2次訪問団 H29.11.16~19>

宮本会長はじめ12名が墓参・交流・研修・調査のために訪台した。私は、資料集作成の調査班に同行したが、張慶宗・紀伊文吉氏の案内で大甲・台中・台北を毎日歩き回って調査した。「志賀哲太郎資料集」1・2はH29.12から出版されたが、調査内容が多岐にわたるため訪台前に50項目の調査を大甲区公所に依頼し、張慶宗先生の資料が提供された。編著者増田隆策氏の努力と張慶宗先生の協力に感謝したい。

<台中市大甲区からの訪問団初来日 H30.2.23~26>

「志賀哲太郎先生顕彰のつどい」に劉來旺大甲区長の訪問を招請した。訪問団は王副区长はじめ10名が来日され親しく交流した。

- ・24日：志賀家墓所で墓前祭、田原の志賀先生の生誕地訪問、顕彰会員との交流会。
- ・25日：益城町長表敬訪問（熊本地震と益城町の復興について説明。「顕彰のつどい」に参加し参加者と交流。
- ・26日：平井数馬先生の墓参、津森小学校訪問・参観など有意義な交流ができた。これを機に津森小の児童が郷土の偉人である志賀先生や台湾・大甲への関心を高め大甲国民小学との交流が進むよう期待したい。



志賀家の墓前で訪問団と墓前祭（H30.2）
（熊本市桃尾墓園）

おわりに

<志賀先生の墓所は教え子たちに守られている>



写真中央が志賀先生の墓碑であるが、先生の偉大さは、先生の墓所を守るように教え子たちの墓所が周囲に存在することでよく分かる。

先生の墓所を守る巨大な擁壁上に6家の墓所（李燕山氏は右から3番目）、先生の墓所の右に陳嘉邦兄弟、吳淮水（弔辞を読んだ）兄弟、少し離れて黃並傳（「先生の墓のそばに埋めよ」と遺言した）と許家の墓所がある。

死後も「先生のそばで眠りたい」という教え子たちの敬慕の念に驚く。志賀先生の公平無私で人々に寄り添う精神が大甲の人々の心に強く入り込んだ結果であろう。

志賀先生の顕彰活動は多くの皆さん方の力強い行動力に支えられて次のようにすばらしい成果を生んでいる。泉下の志賀先生も驚きをもって感謝されているであろう。

<顕彰碑「大甲の聖人 志賀哲太郎先生之碑」建立>

碑の建立については植山洋一副会長の周到な企画により進められ、趣旨に賛同された多くの方々の募金、台湾の皆さんによる大甲の石提供や募金、安倍総理の題字など立派な顕彰碑が建立される。建立の場所は昨年から検討されてきたが、校区の中心である津森小学校の隣接地について宮本会長が交渉され取得できるようになった。

この場所が志賀先生の顕彰活動のセンターとして活用されるようになれば素晴らしい。

そして、『志賀哲太郎公園』（仮称）が地元「上陳」の皆様にも愛され、校区の皆様方に親しまれるよう願っている。更に益城町や熊本県内の皆様・全国・台湾の方々へと広がるよう期待している。

<熊本大学教育学部黨武彦教授の志賀哲太郎研究開始>

3年前に熊本大学の黨研究室にお伺いして志賀先生の資料をお渡ししたところ、志賀先生の生き方に感銘を受け研究を開始された。また、黨教授を中心に志賀先生の教材化を目指して研究を進めている。大学の先生方と教職経験者数名（私も）が参加している。

黨教授の研究推進と学生への啓発によって熊本県の教師が志賀先生の生き方に学び、やがて子供たちへと広がれば素晴らしい。（私も教授の要請で3年前から講話を行っている。）

<熊本の高校生が修学旅行で台湾を訪問し志賀先生を祀る文昌祠を訪問>

令和2年度：第二高校美術科と熊本高校がJTBの提案を理解され大甲訪問を決定された。

この企画は昨年7月私がJTB台北と熊本の担当課長に志賀先生の資料を渡して、台湾の国づくりに努力し聖人として祀られている文昌祠訪問を提案したことに始まる。大甲訪問が初めて採用されたのは、JTB熊本の担当者の企画と白濱裕先生の助言によるもので、熊本の高校生達が郷土の先人たちが台湾の国づくりに関わった事績を訪ねるといふ誠に意義深い内容で全県下に広がることを期待したい。（本年度は新型コロナ感染により中止）

<熊本県近代文化功労者への申請・認定申請>

この数年、毎年継続実施中。将来、学校教育で志賀先生の立派な人格について教えて貰いたい。

<益城町と台中市大甲区との友好交流を進め姉妹都市締結を目指した諸課題を検討>

文化交流や学校交流（国際教育）、産業交流などを含めて相互の総合的な発展につなげたい。

志賀先生の顕彰は皆様方の献身的なご努力ですばらしい成果が生まれ遺族として衷心より感謝申し上げます。最後に、志賀家の位牌の前に飾っている賀状（平成31年）の和歌をご紹介します。

歌会始お題「光」に寄せて 志賀哲太郎先生

台湾にその身を捧げたまひけるいさをの光絶えずもあらなむ 折田豊生

■ 志賀哲太郎顕彰会初代会長松野國策氏を偲ぶ

植山 洋一（本会副会長・事務局長）

私が志賀哲太郎の顕彰に関わるようになったのは、縁あって合志市の「合志義塾」を訪ねて塾長工藤左一が益城町土山の水野頼山に書道を師事したことを知り、水野家を訪問し、そこで本会の樋口利雄氏と出会ったことに起因する。その後、益城町公民館講座「横井小楠」の講座に誘われ、更に「四賢婦人」の講座を受講し、浅学ながら記念館案内人を引き受けることになった。そして案内人として記念館に勤務をする間、益城町の歴史文化の第一人者である松野國策氏が時折来館され個別に色々と学ぶ機会があった。

また、平成 27 年 2 月に竜田山霊園で、白濱裕氏(熊本市)主催の「六士先生・平井一馬慰霊祭」が開催され、その時の来賓挨拶で衆議院議員の木原稔氏が、台湾の教育に貢献した志賀哲太郎を紹介され、平井一馬の顕彰と共に日台友好について語られた。この後の懇親会の場で白濱氏から、益城町での顕彰活動立上げを提案され、その申入れに、即答できなかったが、暫らく考えて此れを引き受けることにした。若し活動するとすれば益城町所在の松野國策氏に相談できると思ったからである。究極の処、益城町の歴史文化を語るに松野氏に並ぶ人材はいない。

本顕彰会立上げの話から数日後、思いがけずも益城町役場ロビーで松野氏に出会った。そしてロビーの椅子に掛けて、1 時間ほどお話しすることが出来た。四賢婦人のこと、益城町史のこと、そして本題となる志賀哲太郎顕彰のことを話題とし、会長就任をお願いした。

松野氏は志賀哲太郎については、町史編纂の責任者として十分に承知されていた。町史には志賀哲太郎の生き方から「教育」にあらず、特別に人物を「土」に区分し編纂され、昭和 49 年刊行の桑野豊助氏編纂「志賀哲太郎伝」を参考に志賀哲太郎を要約し記述され、以来、生誕 150 年を目前に、自らも顕彰の機会が必要と考えておられ、その折にお会いしたのである。

ここで、松野國策氏の人となり、そして益城町や熊本県における歴史・文化活動の一端について紹介させて頂く。

松野氏は、木山町で生まれ、海軍士官であった父親の転勤で、小さい頃は横須賀、佐世保で育った。開戦間近になり母と木山町へ帰ってきた。旧制中学済々黉に通っていたが、終戦になり父親の公職追放にあい経済的理由から中退、木山町役場に勤めた。昭和 33 年五ヶ町村合併により益城町が誕生し、初代吉田定町長から旧五ヶ町村青年団の人材育成指導者に任ぜられた。そして国の地域振興施策としての「益城町青年建設班」を組織し指導されている。第一期生 25 名を迎え、合併後の地区代表間の融和団結を兼ねて 60 日間の合宿生活が始まる。研修内容は、農機具に関する知識技能、営農技術研修、そして合宿間の規律について指導された。その成果は県内に認められ、地域振興施策全国大会が長野県で開催された際、益城町が熊本県代表に指定され参加、松野氏は益城町の活動状況を発表し、大会閉会時には全国の指導者代表として謝辞を述べ、石坂繁農林省政務官(後の熊本市長)から賞賛の言葉を戴いた。

松野氏は、その後益城町行政区の隅々までを踏査し地形地質、地下水系の調査、地域の伝統文化など見識を深められた。昭和 40 年頃、田原の杉林の草が生い茂る中に志賀家の 2 基の墓碑を確認されている。現在は、土地改良や採石のため大きく景観が変わってしまった。残念ながら、当時の写真は多くの資料に埋もれて見つけることはできなかった。

松野氏は、此れまでの活動などの経歴から益城町史編纂の主担当者となり、昭和 50 年頃から平成 2 年にかけて町史編纂に没頭され、その後は、熊本歴史学研究会、熊本県地名研究会会長など熊本県の歴史文化界の重鎮として活動され、歴史文化の研究では県下では指折りの知識人であった。特に益城町の四賢婦人、冨田茂七、人間国宝増村益城、神楽保存伝承活動、民話などの語り部指導そして書道は八段位免許を有し益城町各所の碑文、扁額を揮毫されている。

近年、高齢により全ての活動を辞退されたところであり会長をお願いするのは心苦しかったが、益城町への最後の貢献としてお引き受けをお願いし何とかご了承を頂いた。

此の頃の松野氏は自宅で炉辺談話講座を開かれ、町内の有志に益城町の歴史・文化の語り部を育成・伝承されていた。本顕彰会発足時には、氏の炉辺談話塾から城本誠也ご夫妻(本会会員)はじめ、

主な塾生を推薦して頂いた。

顕彰会構想が整う頃、(株)大進会長紀伊進氏(熊本市)の情報から、志賀哲太郎の妹ミノの孫にあたる澤田寛旨氏を本会の折田豊生氏がネットで捜しめぐり会うことができた。澤田氏も志賀哲太郎の顕彰を如何にすべきか思案中であった。こうして三者三様の思いが一つにまとまったのである。

本会の名称について、単に志賀哲太郎先生顕彰会を予定していたが、松野会長は、台湾では先生でも、益城町では、没後百年近くなる偉人であれば、会の名称として先生を付しない方が適切であろうとされ、現在の会の名称となった。

平成 27 年 9 月 6 日、木原稔議員、西村町長、稲田町議会議長などを迎えて志賀哲太郎顕彰会が発会した。

松野会長は、「益城町の児童生徒に『自分を犠牲にして人は平等であるとの信念で台湾の青少年を教育した偉人』がおられた事を伝え、子供たちが人生の手本として勉強し努力する機会を作ろう」と発会の挨拶をされた。その後、本会では、台湾訪問、台湾からの来訪など交流を深めてきた。

こうして顕彰会活動は、順調に進んでいったが、暫らくして松野会長は、日常生活において酸素ボンベを使用されるようになった。

平成 28 年 4 月、「志賀哲太郎生誕 150 周年記念講演」の準備が進む中、熊本地震が発生し、2 度にわたる震度 7 の強震に見舞われ計画は中断した。

松野氏の自宅は前震で書斎書庫塾会場が損壊し、この日、松野夫妻は車で福岡の娘さん宅に避難された。危機一髪、次の夜に震度 7 の本震が発生し先生の家屋は一挙に倒壊したのである。松野氏の多くの資料は救出できぬまま雨に濡れ多くの資料が損壊した。

その後、松野氏の病状が落ち着き 9 月には益城に帰り療養されていた。此の間も顕彰会活動は規模を縮小しつつも継続し、療養先を訪問し、結果報告・承認を頂いていた。松野氏から会長を辞したいとの申し出があったが、来年 3 月までは何とか続けてほしいと慰留に努めた。

しかし、12 月になり松野氏の容態が急変し 12 月 29 日に逝去された。そしてその日が志賀哲太郎の命日であったことが不思議でならなかった。訃報に接し思わず合掌し落涙した。それは志賀哲太郎顕彰会の基礎を築き導かれたことへの感謝でもあった。その後、一年忌を目途に有志により松野國策氏追悼の「益城野に薫る歴史と文化」を刊行し墓前に捧げ、益城町図書館にも寄贈することができた。

現在顕彰会は、二代目宮本睦士会長に引き継がれ、事務局・折田氏の企画により、震災を乗り越えて活動を継続、講演会など啓発活動を実施し、顕彰碑建立の目途をつけ今日に至っている。

(令和 2 年 11 月 12 日記)

台湾の初等教育に尽力
益城町出身の教師・志賀哲太郎
地元で顕彰会発足

日本統治時代の台湾で現地の初等教育に尽力した教師志賀哲太郎(1865~1924年)を顕彰する団体が6日、出身地の益城町に発足した。来年5月に記念講演会を開くほか、台湾との交流などを計画している。

志賀は旧津森村に生

まれ、九州日日新聞(熊本の前身)の政治記者を経て1896年に台湾へ。59歳でしくなるまで台中県大甲(現・台中市大甲区)の公学校に勤め、現地の子どもたちを教えた。台湾人を差別することなく、各家庭を回って相談に応じるなど「大甲の聖人」と慕われた。現地には今も志賀の顕彰碑が残るといふ。

顕彰会は、ことし生誕150周年に当たることから、地元郷土史家や民間団体「日台交流をすすめる会」メンバーらが記念行事の実行委員会を兼ねて立ち上げた。同日、益城町公民館に20人が集い、発会

式を開いた。代表に就いた熊本歴史学研究会の松野國策会長(82)＝木山＝は「台湾との交流経験が豊富な人が集まり、志賀先生の故郷に会が発足した。功績を広く知ってもらい、日本と台湾の交流に役立てたい」とあいさつした。

(池田祐介)

志賀哲太郎先生顕彰会発会式

日本統治時代の台湾で現地の初等教育に尽力した志賀哲太郎の顕彰会発会式で、あいさつする松野國策さん＝益城町

熊本日日新聞の記事 (平成 27 年 9 月 9 日)

■ 志賀哲太郎先生顕彰碑建立の経緯

(本会事務局)

志賀哲太郎先生の顕彰碑を熊本に建立することは、本会設立当初からの重要な目的の一つであった。昨年(令和元年)から建立に向けた具体的な取組みを進め、本年春から募金活動に入った。全国の皆様、また、台湾の皆様にも呼び掛け、多額の浄財をお寄せ頂いたことはまことに有難いことだった。

顕彰碑建立に向けた具体的な作業は碑石探しから始まったのであるが、令和元年早春から、本会副会長の植山洋一さんと会員の城本誠也さんが益城町内の山や造園業者の資材置場等を度々探索し、数十件の候補の中から(有)米満産業所有の大きな石に的を絞った。碑石は、顕彰碑建立の趣旨をご理解下さった同社代表の米満義昭さんが無償で提供して下さいることとなった。

また、植山さんの発案により、顕彰碑の台座には志賀先生の生誕地・中村家の石垣の野面石の石材が使用されることとなった。中村家では長い石垣が熊本地震により崩壊しており、修復工事の前に、ご当主中村啓一様、康弘様父子のご快諾のもとに石材の一部を無償提供して頂くこととなった次第である。

志賀先生が幼少期を過ごされた中村家の石材が顕彰碑の台座に組み込まれることになったのは、新たな意義が付加されたこととなり、感慨深いことであった。



熊本地震で崩壊した中村家の石垣

植山さんには、もう一つ深い思い入れがあった。それは、志賀先生が26年間の半生を過ごされた大甲の街ゆかりの物を顕彰碑に組み入れることができないかということであった。そこには、志賀先生が渡台以来一度も故郷への帰省が叶わなかったことに思いを馳せ、先生の魂を里帰りさせることに繋げたことの熱い思いがあったのである。

検討の末、志賀先生の墓所がある鉄砧山の石か、釣り好きの志賀先生が通われたであろう大甲街の川の石か、いずれかの提供を台湾台中市大甲区の皆様に相談し、最終的に、大甲街を貫流する大安溪の河原の石を送っていただくこととなった。



石探しをされる大甲の皆様

大甲では、紀伊文吉さんのお取り計らいにより、紀伊さん、王澤佳副区長、郷土史家の張慶宗先生、劉國能さんほか多くの皆さんが何度も大安溪の河原に出向かれて1個が20kg余りもある3つの石を選ばれ、送って下さった。

石材の国外送付については幾つかの問題があったが、これについても大甲区公所を始め、木原稔総理補佐官、福岡の総領事館等、関係者のご尽力を頂いて実現することができた。ことに大甲の皆様のご労苦を思うと気の毒でもあったが、紀伊文吉さんから「一人の大甲人として志賀先生顕彰碑の建立に関わることが出来たことを誇りに思います。」とのメールを頂き、大甲の皆さんが同じ思いで取り組んで下さっていることを知らされ、会員一同、深い感銘を受けたことであった。

顕彰碑は、当初、志賀家の菩提寺である浄信寺のご理解を頂いて門前の空き地に建立させて頂く予定であったが、諸般の事情により、かつて津森村の中心地であった上陳の空き地に建立されることとなった。

この地は、猪飼澄代さん、山川喜久代さん、陣猛さんのご一族が共有される土地であったが、皆様お揃いで本会の事業の趣旨に賛同されるとともに、破格の価格で譲渡して下さいることとなった。

ここは、津森小学校のすぐ南側にあり、旧四賢婦人記念館の跡地に隣接する好適地である。石碑は台

湾に向けて建てられたが、この地の西南の方角は田園が広がって遠望が利いており、自然と遥か台湾の地を想起させられる。

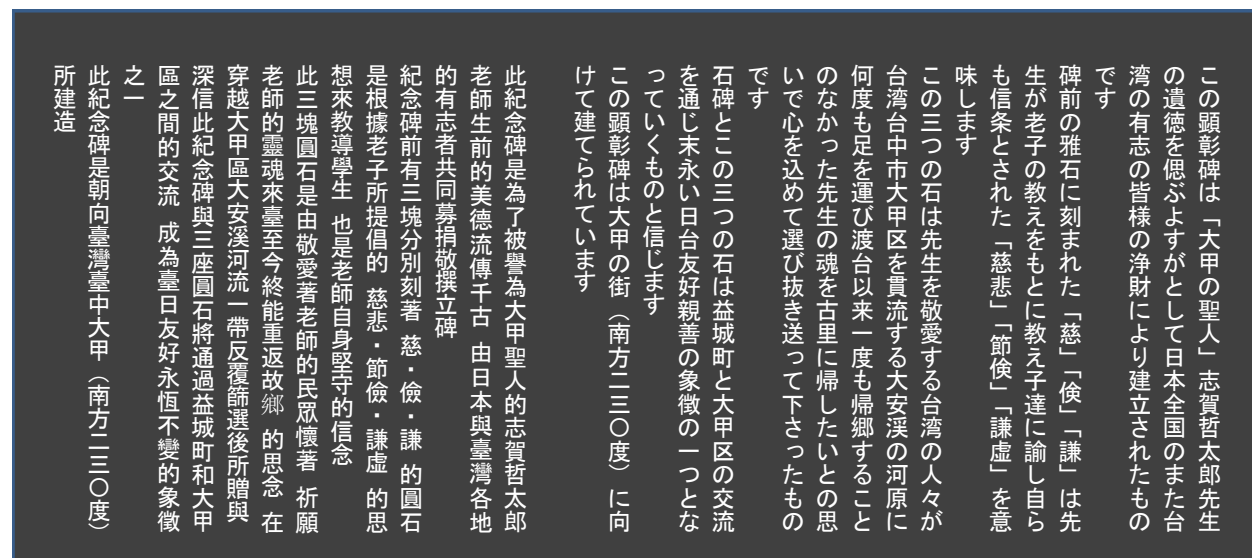
津森村は明治 22 (1889) 年、町村制の施行に伴い、田原村、下陳村、上陳村、小谷村、杉堂村、寺中村の 6 村が合併して発足し、昭和 29 (1954) 年、飯野村、木山町、福田村、広安村と合併し益城町となるまでの約 65 年間存続した。村役場はこの空き地のすぐ近くにあつて、この界隈は一つの繁華街であったという。

そのようなことから、宮本会長は、志賀先生がお帰りになるには、津森村の中心地であったこの地が最もふさわしいと言われる。

顕彰碑建立に当たっては、多くの著名な皆様からもご協力を頂くこととなったが、中でも安倍晋三前総理大臣に碑石題字のご揮毫を頂いたことは、何より有難いことであった。4 月に本会顧問の木原稔議員を通じて依頼書を差し上げたのであったが、当時、コロナ肺炎対応でご多忙であられることは推察されたものの、前総理のご揮毫が地震復興に取り組んでいる熊本県民の励みにもなることを思い、ご無理を承知でお願いした次第だった。6 月にご揮毫の原稿を頂いたときは、会員一同、欣喜雀躍したことであった。

また、先日他界された李登輝元台湾総統にご高配を頂き、芳銘板に令名を連ねて頂くこととなったことも、今後、日台交流を推進する上で、まことに有難いことだった。李登輝元総統にご協力をお願いした頃は、ご高齢 (97 歳) により入院中であられ、コロナ肺炎対応のため、面接できる人とその機会は極端に制限されていた。その僅かな機会に日本李登輝友の会の柚原正敬事務局長を介して秘書の早川友久さんが当方の意向を元総統にお伝え下さり、ご了解を頂いたのであったが、それは、ご逝去の僅か 1 か月余り前のことであり、天祐ともいふべきものであった。

台座の前面には、次の説明文を黒御影石に彫り、貼り付けた。今後、台湾の皆様もお見えになることを予測して台湾語訳を付記したのであるが、翻訳は、李久惟先生 (沖縄ラフ&ピース専門学校学監、多言語多文化研究会代表) にお願ひした。先生は、コロナ肺炎対応のためのオンライン授業システムを構築・整備中で多忙を極めておられたが、寸暇を惜しんで協力して下さい。




このようにして、多くの人々のご協力と何かに導かれているような不思議な経緯により建立された顕彰碑であるが、大切なことは、今後、この顕彰碑を如何に活用していくかである。

生誕地中村家にも、別途、顕彰碑を建立する予定であるが、この二つの顕彰碑によってもたらされる志賀先生の崇高な精神に触れることにより、私達がそれぞれの生き方を顧み、子どもたちが郷土の先輩に成長の道標を見出し、地域社会に、また我が国と台湾との国際交流において、新たな融和と活力が生まれることを期待したい。

【志賀哲太郎先生顕彰碑建立地】

熊本県上益城郡益城町上陳 458 番地（益城町立津森小学校の南方 100m）  印



※ 中村家周辺の地震災害復興後、「生誕の地顕彰碑」（松野國策前会長揮毫）（ 印）を建立する予定。

■ 志賀哲太郎先生顕彰碑建立 ご賛助者 芳名録

本会の企画の趣旨にご賛同頂きました多くの皆様のご芳志、まことに有難うございました。
ここにご芳名を掲げ、永く感謝の意を表します。

なお、敬称は省略させて頂き、原則として、台湾の皆様につきましては姓の漢字の画数順、邦人の皆様、事業者・団体の皆様につきましては50音順で掲載させて頂きました。

また、お住まいの場所として、台湾の皆様につきましては都市名を、県内の皆様につきましては市町村名を、県外の皆様につきましては都道府県名を付記いたしました。

【台湾の皆様】

(姓画数順)
王 澤佳 (台中市)
戎 義俊 (台北市)
李 登輝 (台北市)
李 久惟 (那霸市)
李 金發 (台中市)
李 澄清 (台中市)
吳 敏濟 (台中市)
林 寶彩 (台中市)
施 志昌 (台中市)
洪 月珠 (台中市)
洪 孟榮 (台中市)
陳 明終 (台北市)
陳 芳敏 (台中市)
許 世楷 (台中市)
許 光輝 (那霸市)
張 慶宗 (台中市)
梁 瑞芳 (台中市)
黃 華寧 (台中市)
葉 淑惠 (台中市)
廖 界美 (台中市)
劉 來旺 (台北市)
劉 國能 (台中市)
蔡 雪卿 (台中市)
蔡 怡欣 (台中市)
顏 金源 (台中市)
紀伊文吉 (台中市)

石塚健次 (熊本市)
井芹鐵也 (益城町)
磯貝保博 (東京都)
市川雅浩 (益城町)
市下克幸 (甲佐町)
井手幸代 (益城町)
出田敬三 (御船町)
出田秀尚 (熊本市)
井手文雄 (熊本市)
伊藤俊介 (東京都)
伊藤トキ (熊本市)
稲塚武俊 (益城町)
犬飼邦明 (益城町)
井上勝己 (熊本市)
井上武久 (御船町)
今林賢郁 (東京都)
今村靖男 (山都町)
岩田敏美 (氷川町)
岩村 徹 (宇城市)
岩元克雄 (合志市)
上杉奈緒子 (御船町)
上田 学 (益城町)
植山洋一 (益城町)
内田巖彦 (山口県)
内田欽一 (熊本市)
内田圭二 (熊本市)
内田文重 (益城町)
浦本和雅 (天草市)
江浦昭徳 (熊本市)
江藤英子 (熊本市)
大岡 弘 (栃木県)
大嶋秀一 (熊本市)
太田和夫 (益城町)
太田邦夫 (熊本市)
大塚千春 (熊本市)
大塚芳生 (嘉島町)
大津山顕司 (山鹿市)
大橋 康 (熊本市)
大矢野修 (東京都)
大矢野尚文 (神奈川県)
岡島邦子 (熊本市)
緒方 修 (熊本市)
尾方洋直 (合志市)

岡本博允 (益城町)
沖田一之 (八代市)
奥村高光 (益城町)
奥村芙美子 (益城町)
小田清美 (益城町)
小田正三 (鹿児島県)
小田盛也 (益城町)
小田孝行 (益城町)
小田照美 (益城町)
折田豊生 (益城町)
折田登和子 (益城町)
折田成予 (益城町)
折田安正 (益城町)
甲斐喜三男 (益城町)
海賀千弘 (益城町)
加来晴瑛 (荒尾市)
笠井義雄 (熊本市)
片岡涼一 (益城町)
片倉佳史 (台北市)
桂 文裕 (益城町)
門田隆将 (東京都)
金木弓子 (益城町)
上米良恭臣 (菊陽町)
可村敬次 (菊陽町)
亀山一茂 (益城町)
川口まり子 (益城町)
川野萬里子 (福岡県)
河端光義 (益城町)
川端康成 (益城町)
河原三代志 (熊本市)
河本 慶 (益城町)
岸本 弘 (富山県)
北村公一 (兵庫県)
北本修吾 (御船町)
木村 孝 (熊本市)
清村一男 (甲佐町)
銀永明弘 (熊本市)
楠田博幸 (益城町)
國武新一 (益城町)
國武忠彦 (神奈川県)
久保田真 (熊本市)
久保证明 (益城町)
熊部一美 (益城町)

久米秀俊 (神奈川県)
黒岩真一 (福岡県)
黒木淳哉 (熊本市)
黒木康之 (熊本市)
黒木林太郎 (鹿児島県)
小島 聖 (熊本市)
小島かほり (熊本市)
児玉政俊 (小国町)
五嶋和明 (宇城市)
小林健一 (愛知県)
小林圭子 (愛知県)
小牧幸治 (熊本市)
小柳左門 (福岡県)
小柳志乃夫 (東京都)
権藤正一 (福岡県)
境 信良 (熊本市)
酒井博範 (益城町)
堺美智雄 (埼玉県)
坂口倫章 (熊本市)
坂島 泉 (熊本市)
坂田昭雄 (八代市)
坂田敏昭 (益城町)
坂田知則 (益城町)
坂田秀昭 (益城町)
坂本精児 (和水町)
坂本哲朗 (八代市)
笹原勝之 (熊本市)
笹原文子 (熊本市)
佐藤浩介 (益城町)
佐藤澄世 (菊陽町)
佐野昭二 (熊本市)
澤田寛旨 (八代市)
澤田荔子 (八代市)
澤田 光 (熊本市)
澤田理子 (福岡県)
澤田 満 (福岡県)
澤田達也 (福岡県)
澤部壽孫 (千葉県)
三ヶ道輝 (益城町)
篠原 功 (益城町)
柴田憲治 (御船町)
柴田敏博 (御船町)
嶋田栄男 (益城町)

【邦人の皆様】

(五十音順)
青木国広 (益城町)
赤星圭一 (御船町)
芥川 満 (御船町)
天本和馬 (兵庫県)
有馬伸明 (益城町)
飯島隆史 (埼玉県)
井 薫 (熊本市)
猪飼澄代 (熊本市)
池島勇三 (熊本市)
池松伸典 (神奈川県)
伊佐 裕 (東京都)
石田規子 (嘉島町)

清水昭義 (益城町)	富田幸子 (益城町)	東中野修道 (東京都)	宮本睦士 (益城町)
清水安全 (熊本市)	富田信子 (益城町)	樋口利雄 (熊本市)	宮本多恵子 (益城町)
小路洋一 (益城町)	鳥越友和 (益城町)	平田裕英 (熊本市)	宮本 潤 (益城町)
白石州子 (熊本市)	永井雄二 (益城町)	平野正憲 (合志市)	宮本佳則 (益城町)
白石幸久 (熊本市)	長尾美智子 (益城町)	平山 亨 (御船町)	向井康彦 (宇土市)
白瀬貴美子 (熊本市)	中神 実 (熊本市)	廣木 寧 (福岡県)	村口省三 (益城町)
白浜公博 (熊本市)	中熊英昭 (御船町)	廣瀬 勝 (小国町)	村本廣見 (菊陽町)
白濱慶治 (八代市)	中澤栄二 (長野県)	福田朋博 (益城町)	元田暁輝 (玉名市)
白濱 裕 (熊本市)	永塩幸雄 (益城町)	福田 誠 (菊陽町)	森 光宏 (熊本市)
白濱まゆり (熊本市)	中田淳司 (熊本市)	藤井満州男 (熊本市)	森川公高 (益城町)
白濱裕一郎 (熊本市)	永田壮一 (益城町)	藤門豊明 (八代市)	森川敏郎 (益城町)
白浜靖彦 (北海道)	永田 誠 (熊本市)	藤新成信 (福岡県)	森川智徳 (益城町)
城下良一 (益城町)	中村国博 (益城町)	藤本悦子 (熊本市)	守田 喬 (益城町)
城本一剛 (熊本市)	中村誠男 (益城町)	布瀬雅義 (大阪府)	森田仁士 (福岡県)
城本敬一郎 (熊本市)	奈良崎修二 (神奈川県)	布田 悟 (菊陽町)	森田恭子 (益城町)
城本孝一郎 (熊本市)	難波江紀子 (東京都)	古井博明 (福岡県)	森永好誠 (益城町)
城本誠也 (益城町)	西 一明 (益城町)	古川広治 (福岡県)	森本正敏 (益城町)
城本真澄 (益城町)	西たよ子 (益城町)	古庄忠信 (大津町)	森本祥子 (益城町)
城本大祐 (熊本市)	西 哲也 (益城町)	外口栄一 (熊本市)	諸熊明彦 (熊本市)
城本美月 (益城町)	西田セイ子 (益城町)	外口キヨ子 (熊本市)	諸熊弘毅 (熊本市)
陣 猛 (兵庫県)	西田隆一 (熊本市)	細谷真人 (兵庫県)	諸隈真也 (福岡県)
陳 基礎夫 (益城町)	西原正博 (福岡県)	堀田 清 (益城町)	薬丸保樹 (大阪府)
陳田幸記 (益城町)	西山昭敏 (益城町)	堀田真澄 (福岡県)	安尾宣子 (益城町)
末次直人 (菊陽町)	西山八郎 (佐賀県)	前田秀一郎 (山梨県)	矢田幸貴 (益城町)
寿咲亜似 (熊本市)	西山 充 (益城町)	真子秀樹 (熊本市)	彌富照皇 (熊本市)
須田清文 (秋田県)	丹生正作 (御船町)	増田隆策 (熊本市)	矢野正紀 (益城町)
世古 豊 (益城町)	野田正和 (益城町)	松浦良雄 (福岡県)	山内健生 (神奈川県)
高千穂義静 (益城町)	野田将伸 (熊本市)	松岡憲二 (熊本市)	山方富美子 (熊本市)
高橋秋壽 (益城町)	野田将晴 (天草市)	松崎 昇 (熊本市)	山川喜久代 (佐賀県)
高原朗子 (熊本市)	野籐泰昇 (福岡県)	松下美奈子 (天草市)	山口秀範 (福岡県)
宝辺矢太郎 (山口県)	野村 隆 (熊本市)	松島寿市 (八代市)	山崎正人 (福岡県)
瀧本征範 (熊本市)	野元政司 (熊本市)	松田弘幸 (熊本市)	山崎宇代 (福岡県)
多久善郎 (合志市)	倍 英文 (益城町)	松野伸子 (益城町)	山田和幸 (益城町)
竹下貴丸 (熊本市)	倍 澄香 (益城町)	松野勇紀 (益城町)	山田高大 (熊本市)
竹田泰司 (甲佐町)	橋口武弘 (熊本市)	松野陽子 (益城町)	山田靖次 (益城町)
竹智千春 (山都町)	橋場紀仁 (益城町)	松本敏明 (益城町)	山辺陽子 (益城町)
竹本紀彦 (益城町)	橋本公明 (長崎県)	松本博美 (益城町)	山本國雄 (熊本市)
田尻宏行 (熊本市)	橋本正勝 (熊本市)	松本正伸 (益城町)	山本奎祐 (熊本市)
立石壽久 (嘉島町)	花吉洋一 (荒尾市)	松本 稔 (益城町)	山本正一郎 (益城町)
田中明子 (嘉島町)	馬場功世 (益城町)	松山良二 (熊本市)	山本益雄 (益城町)
田中耐子 (熊本市)	馬場園弓子 (熊本市)	丸山伸治 (熊本市)	湯浦幸二 (熊本市)
谷口和子 (益城町)	早川宏次 (熊本市)	水村洋一 (菊陽町)	湯浦由美子 (熊本市)
田之上正明 (湯前町)	林田興文 (熊本市)	溝口秀子 (益城町)	柚原正敬 (東京都)
田上良克 (熊本市)	林七口子 (大津町)	道田俊郎 (熊本市)	余米紀彦 (東京都)
月田潔孝 (熊本市)	林富美子 (益城町)	光永幸弘 (益城町)	余米君宜 (東京都)
津田義明 (益城町)	原 明宏 (熊本市)	南田武法 (鹿児島県)	吉住英子 (益城町)
寺井茂幸 (熊本市)	原 秀志 (大阪府)	蓑田誠一 (八代市)	吉田明博 (熊本市)
寺本敬司 (熊本市)	拂山裕一 (宇土市)	三宅将之 (岡山県)	吉田喜久子 (福岡県)
黨 武彦 (熊本市)	原川猛雄 (神奈川県)	宮崎重人 (長崎県)	吉田宏平 (合志市)
藤 寛明 (福岡県)	東 兼充 (熊本市)	宮崎孝夫 (益城町)	吉田鶴千代 (益城町)
徳尾真龍 (益城町)	東 健次 (宇城市)	宮村泰秀 (御船町)	輿島誠央 (福岡県)
徳島道雄 (益城町)	東 珠美 (熊本市)	宮本紀六 (益城町)	吉原惠幸 (益城町)

吉村 新 (玉名市)
 吉村圭四郎 (熊本市)
 吉村博典 (益城町)
 吉村浩之 (熊本市)
 米田三千雄 (益城町)
 米原壽昭 (益城町)
 米満義昭 (益城町)
 米村孝一 (熊本市)
 匿名希望 (神奈川県)

【事業者・団体の皆様】

朝日野総合病院 (熊本市)
 (株)アド企画センター (熊本市)
 (株)石結 (熊本市)
 (株)イズミ車体製作所 (大津町)
 出田眼科病院 (熊本市)
 英勝不動産 (益城町)
 かがクリニック (益城町)
 (有)加来建設 (荒尾市)
 上益城郡退職校長会
 河端自動車整備工場 (益城町)
 看板の軸丸 (益城町)
 木山神宮 (益城町)
 (株)九広 (益城町)
 (株)熊本酸素 (熊本市)
 熊本大同青果(株) (熊本市)
 (株)GRAY企画 (熊本市)
 (株)ケ・セラ (熊本市)
 金光教木山教会 (益城町)
 坂口歯科医院(熊本市)
 (有)清水木材 (益城町)
 (株)JTB熊本支店 (熊本市)
 浄信寺 (益城町)
 (有)城下建設 (益城町)
 すずかけ台保育園 (合志市)
 専壽寺 (益城町)
 (有)葬祭公社 (益城町)
 千草保育園 (熊本市)
 津森校区区長会 (益城町)
 津森小学校 (益城町)

津森小学校PTA (益城町)
 津森神宮 (益城町)
 津森老人クラブ (益城町)
 (株)トライスト (熊本市)
 (株)ニコニコ不動産 (熊本市)
 (株)西田電工 (熊本市)
 (有)西山設備工業 (益城町)
 (有)日本サン技建 (益城町)
 (株)橋口石彫工業 (熊本市)
 東熊本第二病院 (菊陽町)
 肥後銀行木山支店・
 広安支店 (益城町)
 ヒロコーポレーション
 合同会社 (泗水町)
 ふくだ整形外科 (益城町)
 (株)ベジタ (熊本市)
 保育園ころ (益城町)
 (有)益城管工 (益城町)
 ましきクリニック (益城町)
 益城病院 (益城町)
 益城町企画財政課
 益城町復興整備課
 益城町役場職員有志
 益城町文化協会 (益城町)
 (有)松本農園 (益城町)
 (有)山本建設工業 (益城町)
 (有)山本屋 (益城町)
 (有)吉原食品 (益城町)
 (有)米満産業 (益城町)

◆ 本会からのお願い。◆

皆様が、このたび、ご芳志をお寄せ下さり、銘板にご芳名が記されていることを、お子様やお孫様、ご親戚の皆様、ご友人の皆様に、ぜひ、お伝え下さい。

そのことをお聞きになられた皆様は、いつか機会を得てきつとこの顕彰碑をお訪ね下さいます。そして志賀先生のことをお知りになり、皆様が志賀先生に心をお寄せ下さり、そのお心の一部がこの顕彰碑に留められていることをお喜び下さいます。

それによって志賀先生の気高いご精神が皆様を介して多くの人々の心に広がっていくであろうと思います。

それは、顕彰碑が持つ大切な働きの一つです。そのことをお心にお留め下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。



◆ ご協賛まことにありがとうございます ◆

私たちは「愛する人を安心して
任せられる病院の創造」を目指します。

医療法人 朝日野会
朝日野総合病院
救急告示指定(二次)

〒861-8072 熊本市北区室園町12番10号 TEL 096-344-3000 FAX 096-343-7570

系列病院	十善病院	熊本市中央区南熊本 3-6-34 TEL 096-372-2688	球磨病院	人吉市上青井町 176 TEL 0966-22-3121	人吉中央温泉病院	人吉市上青井町 170-1 TEL 0966-24-2854
	博愛会病院	熊本市中央区紺屋今町 4-3 TEL 096-325-2233	光生病院	人吉市下原田町 1125-2 TEL 0966-22-5207	球磨村診療所	球磨郡球磨村一勝地甲 77-17 TEL 0966-32-0377

 **熊本大同青果株式会社**
オリジナルブランド 熊本とっぺん野菜
お届けします! 安心安全・確かな味わい!

代表取締役会長 月田求仁敬
代表取締役社長 月田潔孝

熊本市西区田崎町 484
TEL.096-323-2505 FAX.096-323-2503



車検・点検・钣金塗装・新車・中古車
各種ローン OK・スズキ代理店

河端自動車整備工場

 ☎ 286-2315
☎ 284-6030
(夜)286-6323
益城町上陳 432

安心のカーライフ 代表者 河端光義

新しい キムチ 手づくり漬物
わぼんしょう 倭播椒

キムチの里

有限会社 吉原食品
益城町馬水 167
TEL.096-286-7676 FAX.096-286-7868

 **金光教木山教会**
金光教の神様は、広大な天地のあ
らゆるものを生かし育む神様です。
結婚式・宮参り・七五三・お祓い・地鎮祭その他
ご要望に応じて祭典を執り行います。

益城町宮園 574
TEL.096-286-2257 FAX.096-286-2819
肥後銀行木山支店東側の路地
を北側に入ると教会があります。

社会福祉法人こころ

 **保育園 こころ**

思いやりの“こころ”を
大切に育てます

〒861-2244 TEL.096-273-9600
益城町寺迫 1021-1 FAX.096-273-9601

益城の里 鎮座
木山神宮
[益城町再興祈願]
禰宜 矢田幸貴

〒861-2242 益城町木山 281
TEL. 096-286-5185

ふくだ整形外科

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科

院長 福田 朋博

(日本整形外科学会 整形外科専門医)

電話 (096) 286-7391

上益城郡益城町馬水805

産交バス 上野添バス停前

土木・とび・土工・舗装・しゅんせつ
塗装・水道施設・解体等の各工事

有限会社 日本サン技建



専門スタッフが対応します!

〒861-2201 益城町寺中 6-13

お問い合わせは・・

TEL.096-287-0087

ましきクリニック



耳鼻咽喉科

院長 桂 文裕

はな のど みみ

<http://www.mashiki-clinic.com/>

益城町惣領交差点

Tel.096-287-8733 (はなみみ)



EISHO FUDOSAN

英勝不動産

代表者 小田 清美

TEL.096(286)7210 FAX.096(286)7744

益城町宮園 724-14

お家のことは何でもご相談ください(査定無料)



ニコニコ

株式会社 創業 33年

ニコニコ不動産

代表取締役 山田 高大

〒861-2106 熊本市東区東野 2-1-10

E-mail/ info@nikoniko-f.com

TEL.096-369-8566 FAX.096-385-2157



熊本東店

熊本県知事(3)第 4423 号
賃貸住宅管理業 国土交
通大臣(1)第 1618 号



千草保育園

ちくさほいくえん

社会福祉法人 向真会

理事長 城本敬一郎

● 保育目標

- ・元気な子ども
- ・自主的で意欲的な子ども
- ・自分の力を発揮し友達を大切にできる子ども

〒860-0833 熊本市中央区平成 3-2-12

(電話) 096-378-3958

お気軽にお問い合わせください。



地域の文化と伝統を守る

創祀 1480 年の歴史

津森神宮

宮 司 甲斐喜三男

責任役員 小田盛也 野田正和

馬場功世 西山昭敏

諸儀礼.厄除け.開運の御祈願承ります。

〒861-2201 益城町寺中 708

TEL.096-286-2808 FAX.096-295-1173



株式会社 イズミ車体製作所

人にやさしいオンリーワンの車づくり
お客様の声をそのままカタチに！

レントゲン検診車シェア日本一 医療・福祉関係など特殊車両の製造・販売

代表取締役会長 古庄 忠信
代表取締役社長 國武 幸弘

〒869-1222 菊池郡大津町岩坂 3258-4
TEL. 096-279-1733 FAX. 096-279-1666

墓石や記念碑の設計施工・石材再生
金箔施工・石彫刻（墓石や表札）



お墓や記念碑のこと何でもご相談ください。

榑石結 代表取締役 原 明宏

〒861-8031 熊本市東区戸島町 931

☎ 0120-01-6321 iyui2014@gmail.com

(有) 葬祭公社

全葬連加盟店
コープ熊本指定店

齋場 益城会館
小齋場 東館・家族館

<http://mashiki.net>

益城町安永 652 ☎ 286-2258

浄土真宗本願寺派
＜ 益城町復興の祈り ＞

専 寿 寺

住職 高千穂義静

〒861-2242 益城町大字木山 291

TEL 096-286-2419/FAX.096-289-7878

志賀哲太郎先生の菩提寺

浄 信 寺

浄土真宗本願寺派

寺院絵師稲垣石齋や京佛具の絵師が描いた本堂や御内陣の天井絵は貴重な文化財

樹齢 250 年の白木蓮も銘木

益城町田原 327 ☎ 096-286-2623



医療法人 出田会

出田眼科病院

院長 出田 真 (五代目)

地域の皆様に寄り添って 100 余年

初 代院長 出田保雄

二代目院長 出田邦夫

三代目院長 出田秀尚

四代目院長 出田隆一

出田会の理念「誠の心」を受け継ぎ 眼の総合病院としてますます充実

〒860-0027 熊本市中央区西唐人町 39 TEL.096-325-5222 (代表)

予約専用電話:096-311-5755・096-352-1506 (月～土 8:30～17:00)



熊本店: 〒860-0807 熊本市中央区下通 1-8-22 JTBビル内

新規ご相談・申込 ☎ 050-3116-3111 台湾旅行のプランもいろいろ!!



電気工事・計装工事・空調工事・太陽光発電設備工事
株式会社 西田 電 工

代表取締役社長 西田 隆 一

本 社 〒861-2118 熊本市東区花立 4 丁目 11-27
TEL.096-282-8580 FAX.096-282-8580
益城支店 〒861-2244 上益城郡益城町寺迫 1338-3
TEL.096-286-8664 FAX.096-286-8763
合志支店 〒861-1102 合志市須屋 357-6
TEL.096-343-7758 FAX.096-286-8763
E-mail:dendentakaichi@ceres.ocn.ne.jp

肥後銀行は、

お客さまお一人おひとりの視点に立ち、
お客さまとふるさと熊本の持続可能な成長を
お手伝いいたします。

木山支店 Tel 096-286-3121

広安支店 Tel 096-286-0211



ふるさと熊本を元気に！



株式会社加来建設

代表取締役 加来晴瑛

社員一丸となって頑張っています!!

〒864-0001 荒尾市原万田 541-6
TEL.0968-62-1495 FAX.0968-62-4506
建設業 総合建設業 土木・建築工事業

児童発達支援事業所
ケ・セラ

代表 彌 富 照 皇

子どもたちの成長を喜び合える場に!

〒861-2102 熊本市東区沼山津 3-14-36

TEL.096-360-0938 FAX.096-285-1271

障害児通所支援事業 障害児相談支援事業

<https://www.kesera.net>

Email:info@kesera.net

農業より素晴らしい仕事はほかにない!!

株式会社松本農園

代表取締役 松 本 博 美

国内外を問わず消費者に生産情報を正確に伝え「食」の安全を守る!

農産物の情報開示システムを確立

「生産情報公表 JAS」・国際認証システム「グローバル GAP」「SQF 1000」取得

台湾や香港に定期的に輸出 切干大根はヨーロッパでも大人気 (EU7ヶ国に輸出)

〒861-2203 熊本県益城町大字上陳 838 番地

TEL.096-289-1555・289-1333



痛くなってからではなく

継続ケアで健康な歯の維持管理

坂口歯科医院

院長 坂口倫章

歯周病とインプラント治療に力を入れています!

〒862-0949 熊本市中央区国府 1-1-1

県内のお客様 ☎ 0120-8020-45

県外のお客様 ☎ 096-371-8888

昭和 56 年創業 地域の発展を支える

有限会社城下建設

代表取締役 城 下 英 治

【業務内容】

土木工事 建築工事 とび・土工工事
管工事 舗装工事 しゅんせつ工事 など

〒861-2202 益城町田原 167

TEL.096-286-5115



内科 循環器科 小児科
かいがクリニック
 院長 海賀千弘

<診察時間>

月水 = 9:00-12:00 / 14:00-18:00

火 = 9:00-12:00 木 = 9:00-13:00 土日祝 = 休

〒 861-2242 上益城郡益城町木山 358-1
 (電話) 096-286-2023

産交バス横町停留所下車 徒歩 3分



株式会社 九 広

地域の発展を心にとどめて..

代表取締役 鳥越友和

携帯 090-1349-5082

(本社事務所) 〒861-2236 上益城郡益城町広崎 492-1
 TEL. 096-289-7385 FAX. 096-285-3578

(戸島作業所) 〒861-8041 熊本市東区戸島 5丁目 15-38

E-mail : kyukou0411@gmail.com

事業内容

《 建設業 》

- ・ 太陽光発電施設工事
- ・ 交通安全施設工事
- ・ 景観施設工事
- ・ 橋梁補修工事
- ・ 一般土木工事

おかげさまでの感謝を込めて

熊本酸素株式会社
熊本医療ガス株式会社
 代表取締役社長 白瀬 貴美子

熊本市北区下硯川町2205番地
 ☎ 096 (355) 3321

有限会社 **西山設備工業** 昭和51年創業
 地域に根差して

代表取締役 **西山 充**

水を繋ぎ命を繋ぎ未来へ繋ぐ
 給排水衛生設備・上下水道・浄化槽設備工事

〒861-2206 益城町下陳 140-1
 TEL.096-289-6172



何ごとにもトライするチャレンジ精神！
 お客様のニーズに合わせ時代の変化に即した
心のこもったものづくり
 ご予算を最大限に活かした魅力あるノベルティ製作

代表取締役 **江藤 英子**

〒862-0924 熊本市中央区帯山 4-23-55
 TEL.096-385-6616 FAX.096-385-3685
 URL: <http://kumamongoods.com>
 E-mail: trist@fa2.so-netne.jp

小ロット可能・短納期・高品質・低価格を実現!!

～ 事業内容 ～

- ◆ 雑貨類製造・卸(くまモングッズ・玩具・文房具・ご当地キーホルダーストラップ・マグネット・シール等)
- ◆ オリジナル注文商品受注製作
- ◆ 表札・看板(木版、アクリル、マグネットシート)
- ◆ メニュー表・ストラップ・コースター等

有限会社清水木材

木山川のせせらぎを聞きながら

木に新たな「いのち」を吹き込む営みを今日も紡ぐ

〒861-2204 益城町小谷 136

TEL.096-286-6017 FAX.096-286-4345

製材・一般建築木材・木材加工
木工品製造販売・外材・建材

取締役会長 清水 昭 義

代表取締役 清水 範 昭



有限会社山本建設工業

代表・取締役 山本 益 雄

地域の復興・発展に貢献しています!!

〒861-2231 益城町安永 548-1

(電話) 096-286-4595

まずはお気軽にお電話ください。

熊本県知事許可 第 009650 号

◆土木工事

河川・トンネル・橋梁・土地造成・下水道管理没・治山工事

◆とび・土工工事

◆舗装工事

アスファルト舗装・コンクリート舗装・路盤築造・ブロック舗装工事



四季の味

やまもとや

ランチ ディナー 懐石料理

〒861-2231 益城町安永 575-2

TEL.096-286-2017 (水曜日=休)

仕出し部 (寿司・鉢盛・お弁当) もご利用を!

TEL.096-286-2046 (9時~18時)

社会医療法人ましき会



益城病院

精神科・心療内科・小児科 (児童思春期) 歯科

理事長 犬飼 邦明

院長 渡邊 信夫

〒861-2232 上益城郡益城町馬水 123

TEL. 096-286-3611



カット野菜・真空低温調理

農業法人株式会社ベジタ

代表取締役 外口 榮一

本社 熊本市西区蓮台寺 1-2-31

工場 熊本市西区田崎町 484 A-1

熊本地方卸売市場内

TEL.096-355-0660 FAX.096-359-5240

E-mail: youkosou@festa.ocn.ne.jp

土木・とび土工・舗装・しゅんせつ
水道施設・管の各工事

有限会社 益城管工

代表・取締役 坂田 知則

復興！発展！充実！

〒861-2202 益城町田原 292

☎ 096-286-5503

何でもご相談ください!!

きららかな老後をあなたに！

シルバーハウス「煌ら」

確かな介護技術

こまやかなこころづかい

ヒロコーポレーション

代表 林ヒロ子



☎ 0967-46-5525

〒861-1204 菊池市泗水町永 3193



緑と花に囲まれたうるおいのある暮らし！

有限会社渡邊産業

総合造園・設計・施工管理

熊本県造園建設業協会会員

一級造園施工管理技士 渡邊 英博 (専務取締役)

〒861-2204 上益城郡益城町小谷 373-2

TEL 096-286-9033 FAX 096-286-9595



株式会社

はしぐちせきちょうこうぎょう

橋口彫工業

《石工事全般》 墓石 納骨堂 文化財・記念碑・造園・神社仏閣石工事等
墓碑クリーニング 墓碑リフォーム

創業明治5年。130年あまり続く石材店です。お客様の想いを大切にしてお墓づくりを始め、建築工事、彫刻品等の様々な石材工事に、熟練した社員が蓄積された技術を活かします。

営業時間：午前9時～午後5時 定休日：火曜日

【本社】〒860-0078 熊本市中央区京町 1-3-5

TEL.096-324-1122 FAX.096-324-1123

E-mail: ishi@hasiguchi.co.jp

【展示場】〒861-4151 熊本市南区富合町清藤 43-1

TEL.096-320-4730 FAX.096-320-4735

E-mail: tomiaiten@hasiguchi.co.jp

看板の軸丸

お客様のご要望に応じて ていねいにお作りいたします。

看板・標識製作 代表者 軸丸 雅子

〒861-2244 益城町寺迫 924-4 TEL/FAX096-286-9585

すずかけ台保育園

通常保育 午前7時～午後6時

延長保育 午後6時～午後7時 (月～金)

つぼみ組 0歳児・1歳児

たんぽぽ組 1歳児・2歳児

ちゅうりっぷ組 3歳児

すみれ組 4歳児

ひまわり組 5歳児

まごころをもって遅く生きる子

強い子、考える子、明るい子

にのびのびと育てます！

社会福祉法人 しあわせ福祉会

理事長・園長 平野 正憲

〒861-1115 合志市豊岡 2000-699

TEL.096-248-4532 FAX.096-248-4582

■ 会員募集

会員を募集しています。

歴史の好きな方、大歓迎です。ただし、本会は、個人的な研究発表や学習の場ではありません。また、政治的・思想的・宗教的活動もできません。

本会の活動は、志賀哲太郎に関係する教育・文化・産業振興及び地域・国際交流を目的としたボランティア活動です。多くの皆様の善意のご協力をお願いいたします。

◇正会員

- ・会の運営に参加し、発行物の提供を受けることができます。
- ・運営会議に参加していただきます。(できる範囲で結構です。)

◇賛助会員

- ・会の活動を側面から任意にサポートしていただきます。
- ・会の活動状況の報告、発行物の提供を受けることができます。

◇協力会員

- ・広報など、近隣の会員の活動を臨時にサポートしていただきます。
- ・臨時に発行物の提供を受けることができます。

【志賀哲太郎顕彰会の歩み】

- H27.09.06 発足（会長：松野國策=熊本県文化功労者・熊本歴史学研究会会長）
月例会議において事業内容と諸課題を検討
- H28.02.26-29 代表者7名が台湾台中市大甲区を訪問
(大甲区長表敬訪問・志賀哲太郎墓前祭催行・資料調査等)
- H28.04.14 熊本大震災により活動中断
(5/28 開催予定の志賀哲太郎先生顕彰のつどいは平成30年に延期)
- H28.08.07 臨時会議
- H28.11.16 月例会議再開
- H28.12.29 松野國策会長逝去（※志賀哲太郎先生の命日と同日）
- H29.01.14 新会長選任（宮本睦士=益城町教育委員・文化財保護委員・益城の歴史遺産を守る会会長）
- H29.02- 県内各地で志賀哲太郎パネル展を巡回開催
- H29.03.05 益城町保健福祉センターで「志賀哲太郎研修会」(約100人)開催
- H29.03 「志賀哲太郎小傳」刊行
- H29.03- 県内各地でミニ講演会・研修会を実施
- H29.03- 台湾台中市大甲国民小學と益城町立津森小学校との学校交流を支援
- H29.05 インターネットにホームページを開設
- H29.11.16-19 代表者12名が台湾台中市大甲区を訪問(墓参・交流・調査・研修等)
- H29.12.10 くまもと県民交流館パレオ(熊本市)で日台交流会(約100人)開催
- H29.12 「志賀哲太郎資料集」刊行
- H30.02.25 益城町文化会館で志賀哲太郎先生顕彰のつどい(約400人)開催
日台友好交流会(約100人)を開催=台湾台中市大甲区から10名来訪
- H30.12.16 益城町保健福祉センターで「李久惟先生講演会」(約100人)開催
- H31.02 「志賀哲太郎とその時代」刊行
- H31.09.29 熊本市中央公民館で「志賀哲太郎とその時代」出版記念講演会(約50人)開催
- R02.12 志賀哲太郎先生顕彰碑建立

■ 志賀哲太郎顕彰会

<http://shigatetsutarou.cloud-line.com>

事務局 〒861-2232 熊本県上益城郡益城町馬水 848-10 折田方
TEL090-8399-4854 E-mail: olita@lep.bbiq.jp

